

第14回（平成20年度） 水にかかわる生活意識調査 結果レポート（全項目）

ミツカン水の文化センター（事務局：東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 9F 株式会社ミツカングループ本社 社会・文化活動センター内）では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者620名を対象に、平成20年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど有効回答486票の集計結果がまとまりました。

「水にかかわる生活意識調査」は、日常生活と水とのかかわり、生活者の水にかかわる環境意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。

1995年に第1回目の調査を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回で通算14回目になります。

第14回調査のポイント

- ◆全体の約9割が地球温暖化を意識している
- ◆全体の約9割が地球温暖化に危機を感じている
 - －30代における「非常に危機感がある」は昨年と比べて10%増
- ◆半数以上が100年後には「環境税が導入されている」と予測し昨年同様トップ
 - －技術進歩への期待により「一人当たりの水道使用量の制限」はわずかながら減少
- ◆水道水を10点満点で採点すると7.2点（過去最高得点）
 - －東京圏の評価点は過去10年で1.6点増加
- ◆近所の水辺環境は、東京圏で「きれいになっている」と感じている人が昨年比10%増
 - －全体の約5割が「汚くなっている」と回答
- ◆水による災害の不安を感じている人は62.2%、昨年から約10%増
- ◆大震災時に火災にあう可能性、全体の約4割が「ある」。「わからない」は約5割
- ◆全体の約9割が洞爺湖サミットの開催を知っている
- ◆“水の都”を思わせる都市は、「大阪」「京都」「大垣」
- ◆もっとも自然が残っている川は「四万十川」（12年連続）
- ◆もっともおいしい水が飲める都道府県は長野県（14年連続）

〔この件に関するお問い合わせ先〕

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 9F

株式会社ミツカングループ本社 社会・文化活動センター内

TEL. 03-3555-2607 FAX. 03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

【調査概要】

- ◆調査テーマ : 第14回(平成20年度)「水にかかわる生活意識調査」
- ◆調査対象数 : 620票
- ◆有効回答数 : 486票(有効回答率78.3%)
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、千葉、埼玉、神奈川)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : ファックス調査
*ファックスで調査票を送付し、ファックスで回収
- ◆調査期間 : 平成20年6月11日(水)～6月16日(月)
- ◆有効回答内訳(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	30	23	15	13	18	15	63	51	114
30代	30	30	16	14	19	16	65	60	125
40代	33	31	15	16	15	14	63	61	124
50代以上	31	31	16	14	16	15	63	60	123
合計	124	115	62	57	68	60	254	232	486

参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、酢の醸造を社業の中心としてきました。酢の製造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、市民参加型の実践的研究活動「水の文化楽習」、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、イベント「ミツカン水の文化交流フォーラム」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。

【集計結果の抜粋】

水と地球環境

- 4 頁 全体の約 9 割が地球温暖化を意識している
- 4 頁 30 代における「地球温暖化への危機感が非常にある」は昨年と比べて 10%増
- 5 頁 技術進歩への期待により 100 年後の「一人当たりの水道使用量の制限」はわずかながら減少
- 6 頁 地球温暖化防止のための支出平均は、月額 2,072 円
- 6 頁 全体の約 9 割が洞爺湖サミットの開催を知っている

水と飲用水

- 7 頁 水道水を 10 点満点で採点すると、7.2 点で過去最高得点を記録
- 8 頁 水道水への不満は「おいしくない」がトップで 40.5%、昨年比 3.7%減少
- 9 頁 家庭における水使用の汎用性は「水道水」がトップ
- 10 頁 おいしいと感じる水のトップ 3 は「湧き水」「市販のミネラルウォーター」「溪流の水」
- 10 頁 日常よく飲む飲料は「自分で入れた日本茶」がトップで全体の約 4 割
- 11 頁 来客時、最初に出す飲料は「急須に葉を入れて作った日本茶」がトップで全体の約 4 割
- 11 頁 水の供給県で思い浮かぶのは、「長野県」「滋賀県」と今年は「岐阜県」がランクイン
- 12 頁 もっともおいしい水が飲めるのは 14 年連続第 1 位「長野県」(都道府県別)、「日本」(国別)

日常生活と水・生活文化と水

- 13 頁 思い出に残る水遊びは、「小学生」の頃、「海」で、「水泳」をしたこと
- 14 頁 全体の約 6 割が思い出の水遊びを「したいが、最近していない」
- 14 頁 「プール以外で泳いだことがない」子供たちは、全体の 3 割強(35.4%)
- 15 頁 泳ぐなら川や海などの“自然派”が全体の 4 割強(44.0%)
- 15 頁 もっとも子供に伝えたいことは「生き物が豊かな水辺の大事さ」(82.9%)で今年もトップ
- 16 頁 好きな水辺といえば、「溪流、滝」が全体の 6 割強(67.5%)
- 16 頁 水辺でやってみたいことのトップは「風景や景観を楽しむ」(59.3%)
- 17 頁 水とかかわりの深い日本文化といえば、トップ 3 は「酒造り」「稲作」「入浴習慣」
- 17 頁 “水の都”を思わせる都市は、「大阪」「京都」「大垣」

水と災害

- 18 頁 水による災害の不安を感じている人は 62.2%、昨年から約 1 割増
- 19 頁 不安を感じる水災害は、「台風」(70.5%)「水不足」(63.9%)「雨による浸水」(49.0%)
- 19 頁 水のありがたさを感じる時の第 1 位「喉の渇きを癒す時」(66.9%)
- 20 頁 災害等で水が止まってしまったら…昨年から引き続き「行政等の救援の水」に期待
- 20 頁 大震災時に火災にあう可能性、全体の約 4 割が「ある」。「わからない」は約 5 割
- 21 頁 大震災による火災に対する備えは、「市販のミネラルウォーターを買い置き」が全体の 5 割

水にかかわる環境

- 22 頁 近所の水辺環境は、東京圏で「きれいになっている」と感じている人が昨年比 1 割増
- 22 頁 日頃からもっとも不安を感じていることは「飲料水や生活用水の悪化」が全体の約 6 割
- 23 頁 きれいで安全な水を残すために「節水・汚水を排水しない努力」が過半数以上
- 23 頁 家庭での水質保全への配慮は「ゴミを流さないように工夫している」は全体の約 9 割
- 24 頁 多少なりとも「節水を実施している」人は 64.5%
- 24 頁 節水方法として全体の約 8 割が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」
- 25 頁 全体の 5 割弱が「利水・水道施設を見学したことがある」

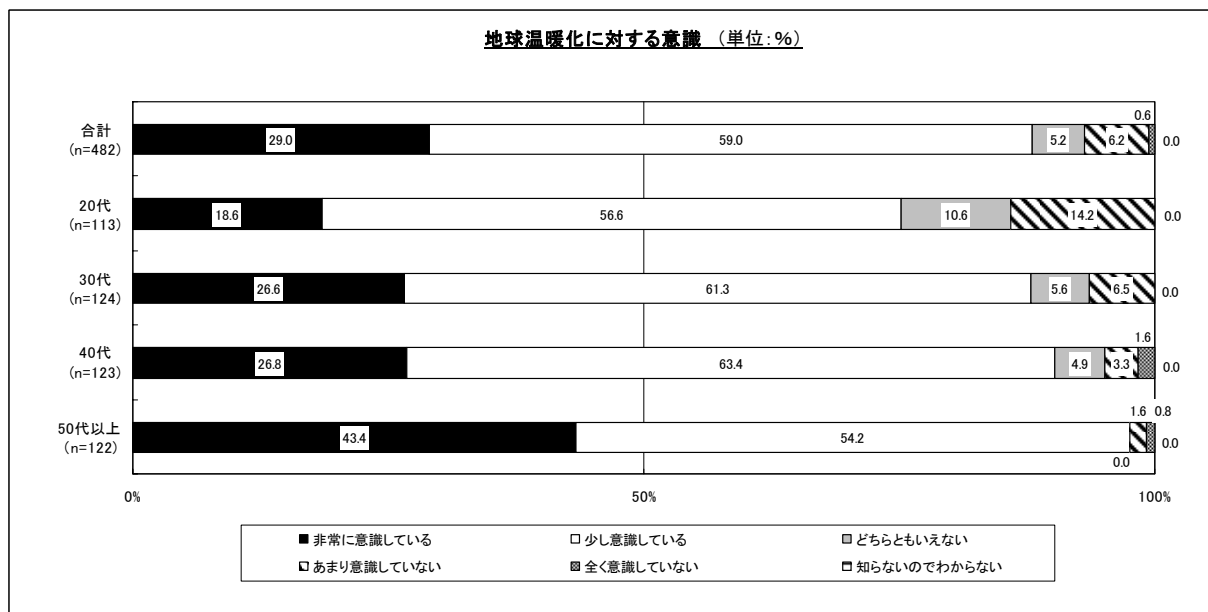
「里川」の認知とイメージ

- 26 頁 全体の 6 割強が「里川」を知らず、50 代以上では約 1 割が知っている
- 26 頁 里川のイメージは「清らかな水が流れる川」「生き物がたくさん棲んでいる川」
- 27 頁 「里川」と思う川は「四万十川」12.4%で、昨年同様トップ
- 27 頁 子供の頃の印象深い風景第 1 位は「田んぼ」で昨年と変わらず
- 28 頁 居住地域で誇れることの第 1 位は「川」(50.8%)、第 2 位は「公園」(31.2%)
- 28 頁 水に関して誇れることは「このままずっと変わらないと思う」が全体の 6 割弱
- 29 頁 もっとも自然が残っていると考える日本の川は 12 年連続で「四万十川」がトップ
- 29 頁 水辺の自然がもっとも損なわれているのは「東京都」と答えた人が 57.7%

Q. 地球温暖化に対する意識は？

◇全体の約9割が地球温暖化を意識している

全体の9割近く(88.0%)が地球温暖化を意識しています。年代別に見てみると、50代以上では43.4%が「非常に意識している」のに対し、30代では26.6%、20代ではわずか18.6%という結果になりました。年代が上がるにつれて、地球温暖化をより意識しているようです。

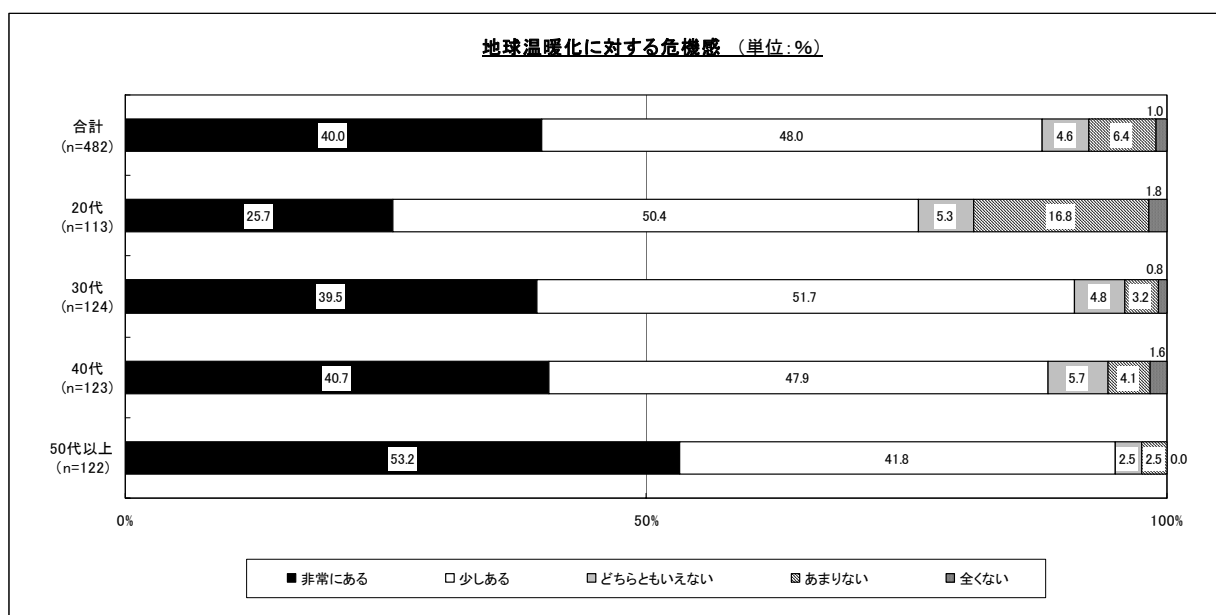


Q. 地球温暖化に対する危機感はある？

◇全体の約9割が地球温暖化に危機を感じている

◇30代における「非常に危機感がある」は昨年と比べて10%増

全体の9割近く(88.0%)が地球温暖化に対する意識と比例して、危機感を持っています。年代別に見てみると、「非常に危機感がある」は50代以上で53.2%、40代で40.7%、20代で25.7%という結果になりました。30代では昨年「非常に危機感がある」が29.5%でしたが、今年は39.5%と10%増加し危機感が高まってきていることがうかがえます。



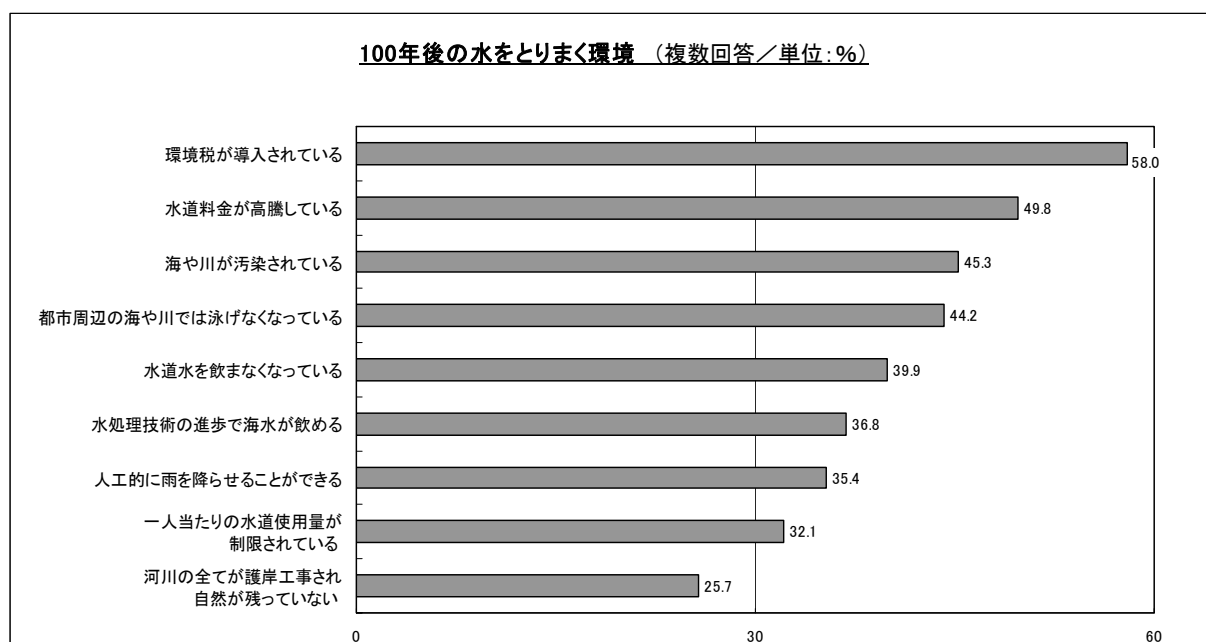
Q. 100年後の水をとりまく環境は？

(26 択＋その他／複数回答) n=486

◇半数以上が 100 年後には「環境税が導入されている」と予測し昨年同様トップ

◇技術進歩への期待により「一人当たりの水道使用量の制限」はわずかながら減少

100 年後の水をとりまく環境に対して回答者の予測1位は「環境税が導入されている」(58.0%／昨年:53.7%)、次に「水道料金が高騰している」(49.8%)、「海や川が汚染されている」(45.3%)という結果になりました。「水処理技術の進歩で海水が飲める」が 36.8%と昨年とほぼ同じ結果でしたが、「人工的に雨を降らせることができる」が今年は 35.4%で、昨年(27.5%)から比べると約 8%増加しました。一方、「一人当たりの水道使用量が制限されている」が今年は 32.1%と、昨年(37.2%)から約 5%減少しており、水不足への不安は技術進歩により解消されるのではないかと期待がうかがえます。



Q. 地球温暖化ストップの為に支払ってもよい金額は？（金額を記入）

◇地球温暖化防止のための支出平均は、月額 2,072 円

◇「10,000 円以上支払ってもよい」50 代は 7.4%、昨年と比べて約 4%上昇

地球温暖化に全体の 9 割近くが危機感を抱いているなか、その地球温暖化防止のために支払ってもよい金額について聞いてみたところ、全体平均で月額 2,072 円。昨年の 2,048 円と比べて 24 円増加しました。

年代別に見ると、20 代で 1,344 円と、昨年の 2,566 円と比べて 1,222 円減少。30 代も昨年の 1,931 円と比べ 625 円減少するという結果となりました。

また「10,000 円以上払ってもよい」と回答したのは 40 代で 8.3%、50 代で 7.4%という結果となり、特に 50 代以上においては昨年の 3.2%と比べて 4%以上増加。年代が高い層における地球温暖化防止への意識の高まりが見られました。

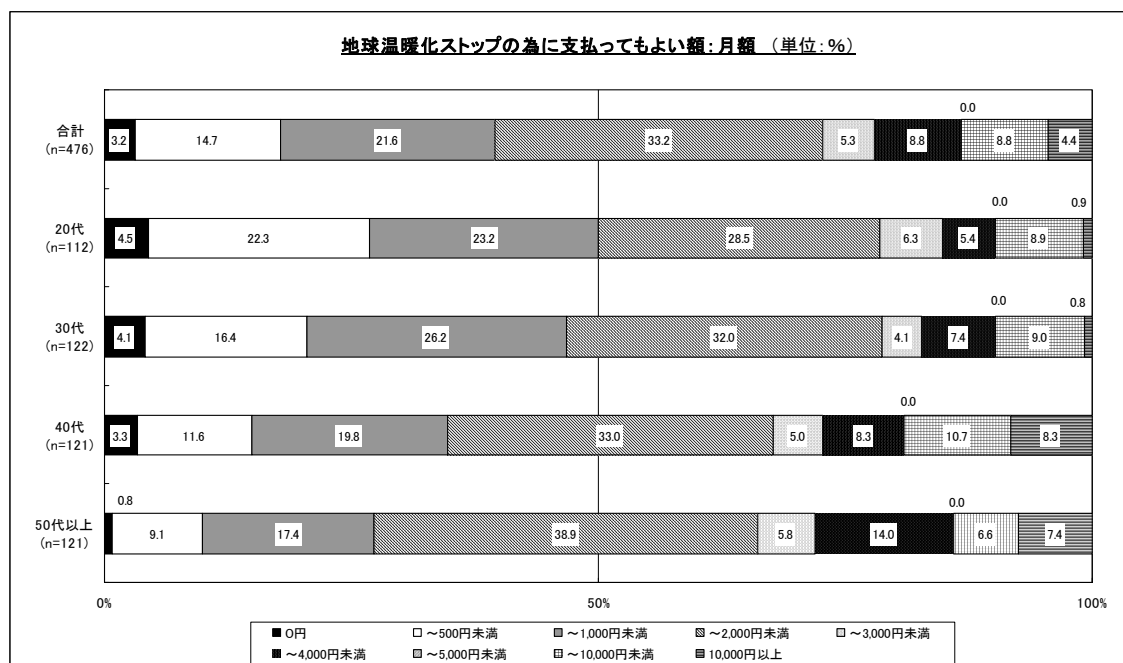
男女別では、男性が平均月額 2,237 円、女性が平均月額 1,890 円という結果となり、男女差約 350 円でした。

地球温暖化ストップの為に支払ってもよい金額：月額（年代別平均）

全体 n=476	20代 n=112	30代 n=122	40代 n=121	50代以上 n=121
2,072 円	1,344 円	1,306 円	2,824 円	2,765 円

地球温暖化ストップの為に支払ってもよい金額：月額（男女別平均）

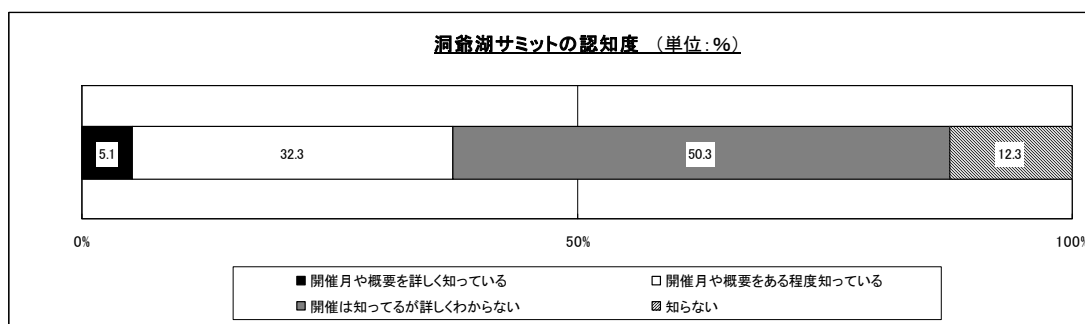
全体 n=476	男性 n=249	女性 n=227
2,072 円	2,237 円	1,890 円



Q. 洞爺湖サミットをどの程度知っていますか？ n=486

◇全体の約 9 割が洞爺湖サミットの開催を知っている

「開催を知らない」人は全体の 12.3%。「詳しく知っている」人こそ 5.1%と低いものの、開催されることを知っている人は 87.7%と、ほとんどの人に開催が認知されていることがわかります。



水と飲用水

Q. 水道水を 10 点で採点すると？ (0～10 までの整数で回答)

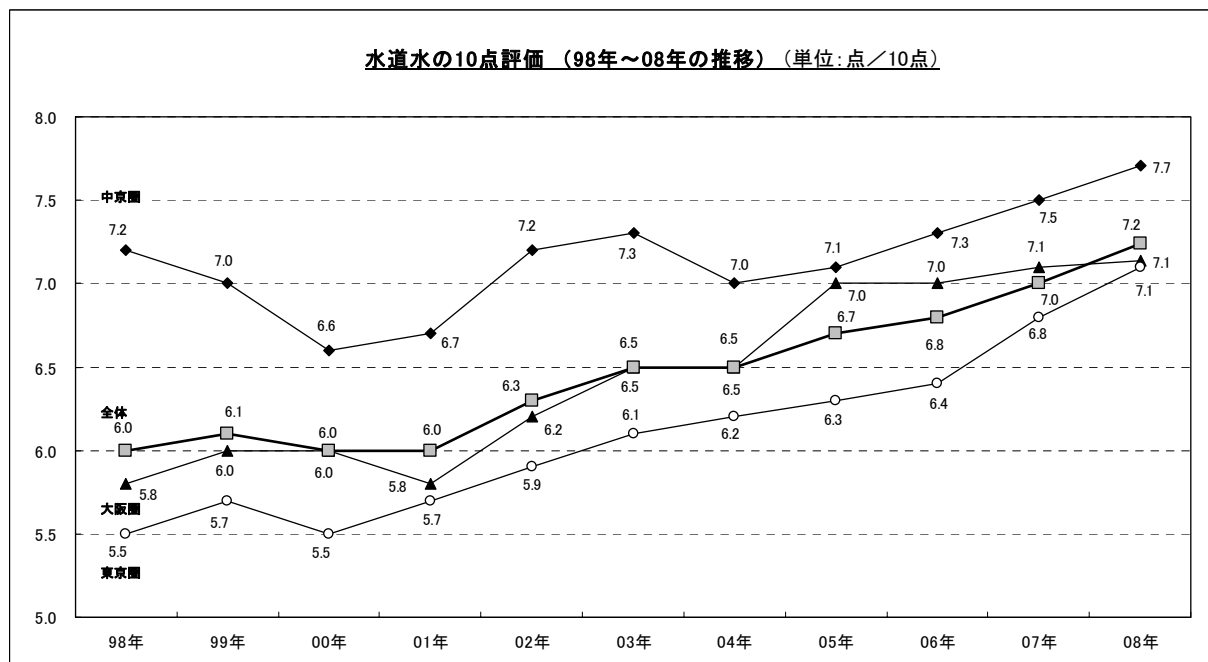
◇全体では過去最高の 7.2 点

◇東京圏の評価点は過去 10 年で 1.6 点増加

全体の平均値は昨年から 0.2 点増加、過去最高の 7.2 点でした。10 年前(1998 年)の 6.0 点と比較してみると、家庭の水道水に対する満足度が上がっていることが見受けられます。

居住地域別で見ると、例年同様、中京圏(7.7 点)が相対的に高くなっており、また、3 圏全てで初の 7 点超えとなりました。伸び率を見ても東京圏が 10 年前の 5.5 点に対して今年は 7.1 点と、1.6 点の増加で伸び率が一番大きくなっています。

また年代別では 30 代(7.3 点)の伸び率が大きく、昨年の 6.5 点から 0.8 点上がっています。



Q. 水道水について不満を感じていることは？

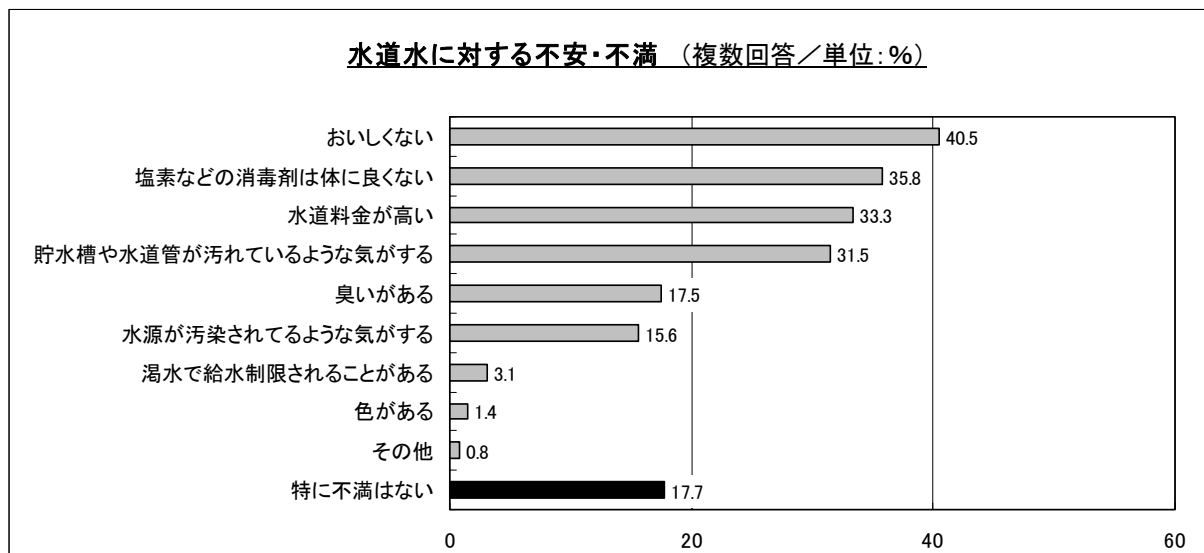
(8 択＋その他＋特に不満はない／複数回答) n=486

◇トップは「おいしくない」で 40.5%、第 2 位は「塩素などの消毒剤は体に良くない」で 35.8%

◇「おいしくない」は東京圏(46.4%)、大阪圏(37.0%)、中京圏(32.8%)

「おいしくない」(40.5%)が昨年と変わらず、比較してみると昨年の 44.2%より 3.7%減少。「塩素などの消毒剤は体に良くない」は昨年では第 4 位で 31.2%でしたが、今年は 35.8%と 4.6%上がり第 2 位でした。

居住地域別に見てみると、「おいしくない」は東京圏 46.4%、大阪圏 37.0%、中京圏で 32.8%と地域ごとに差があります。また大阪圏では昨年ベスト 3 に入らなかった「貯水槽や水道管が汚れているような気がする」が 37.8%で第 2 位にランクしており、水道水に対する不安・不満がうかがえます。



水道水に対する不安・不満 トップ 3 (複数回答／単位：%)

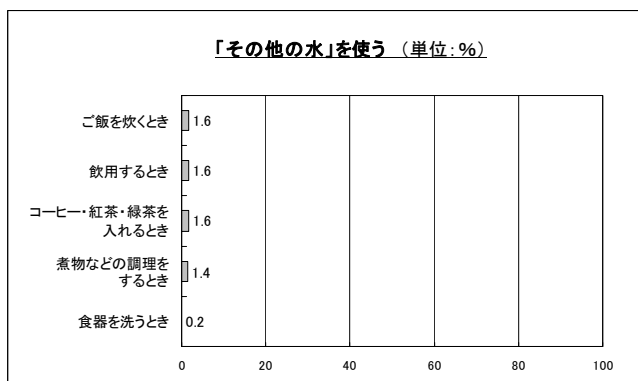
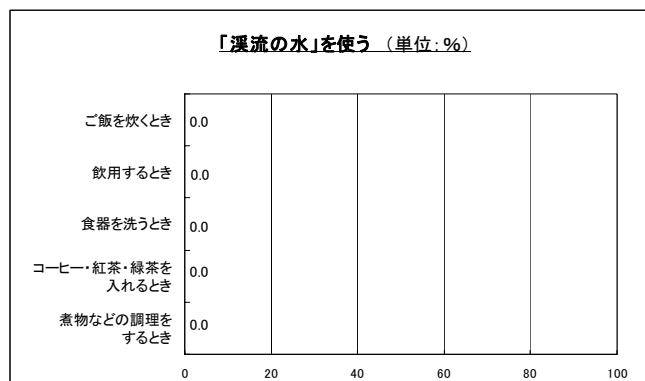
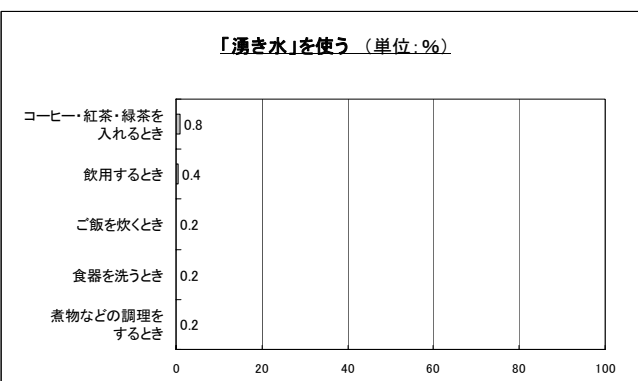
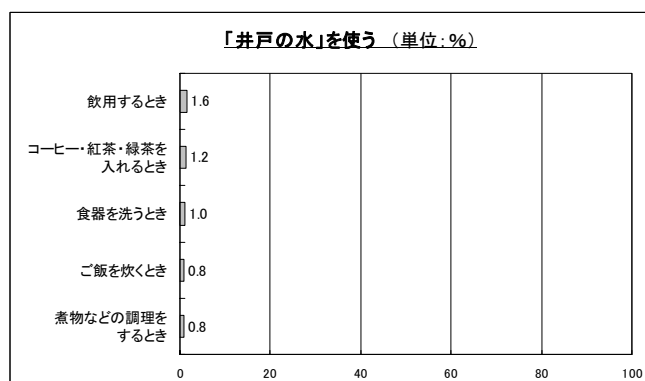
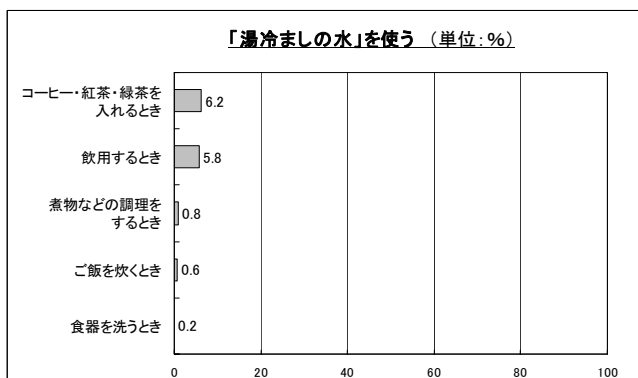
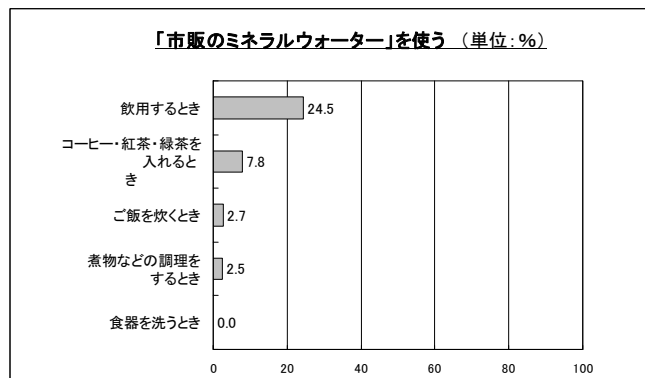
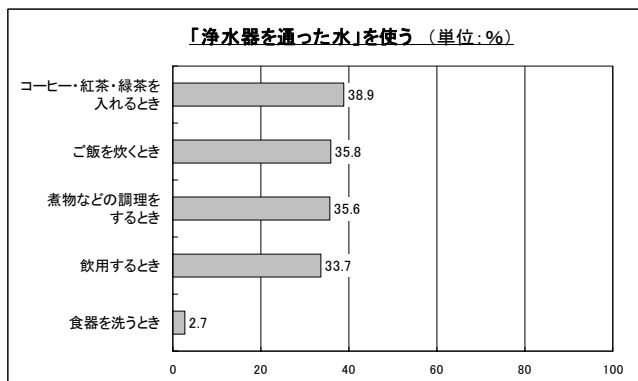
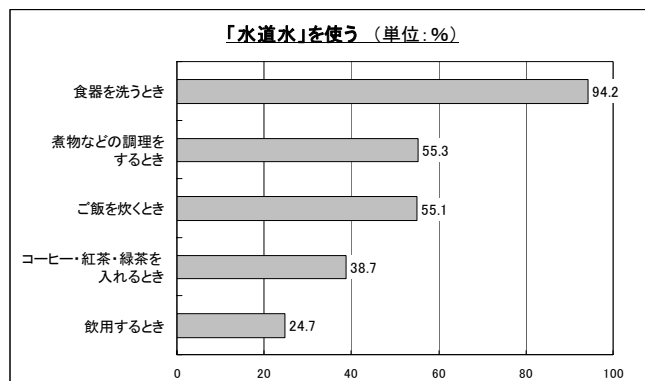
東京圏 n=239		大阪圏 n=119		中京圏 n=128	
1	おいしくない 46.4	水道料金が高い 45.4	塩素などの消毒剤は 体に良くない 34.4		
2	塩素などの消毒剤は 体に良くない 38.1	貯水槽や水道管が汚れて いるような気がする 37.8	おいしくない 32.8		
3	貯水槽や水道管が汚れて いるような気がする 31.0	おいしくない 37.0	水道料金が高い 29.7		

Q. 家庭でのシーン別における水の種類は？（「ご飯を炊くとき」「飲用するとき」「食器を洗うとき」「コーヒー・紅茶・緑茶を入れるとき」「煮物などの調理をするとき」それぞれに7択＋その他）n=486

◇家庭における水使用の汎用性は「水道水」がトップ

家庭でのシーン別における水の種類について聞いてみたところ、家庭における水使用の汎用性は「水道水」がトップ、続いて「浄水器を通った水」、「市販のミネラルウォーター」という結果になりました。

水の種類を家庭でのシーン別に見てみると、「水道水」は“食器を洗うとき”（94.2%），“煮物などの調理をするとき”（55.3%），“ご飯を炊くとき”（55.1%）。また「浄水器を通った水」は，“コーヒー・紅茶・緑茶を入れるとき”（38.9%），“ご飯を炊くとき”（35.8%）となります。「市販のミネラルウォーター」は，“飲用するとき”（24.5%），“コーヒー・紅茶・緑茶を入れるとき”（7.8%）となっています。「井戸の水」、「湧き水」や「渓流水」については、身近でないせいか、家庭ではあまり使われていないようです。

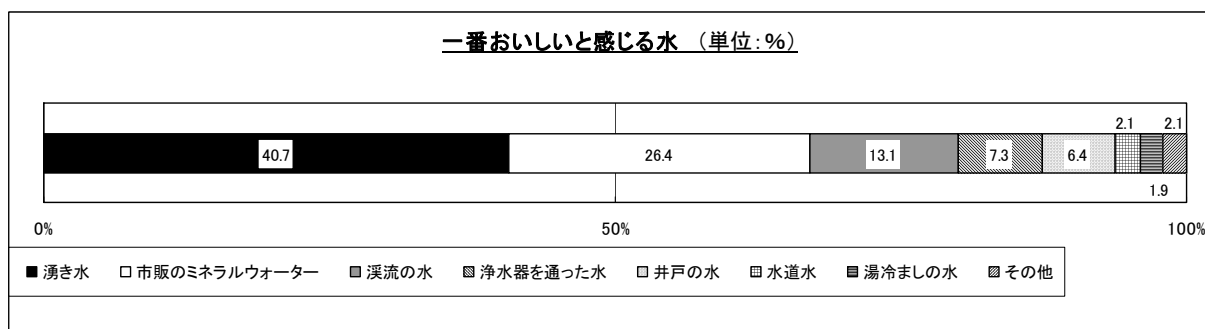


Q. あなたにとって一番おいしいと感じる水は？ n=466

◇トップ3は「湧き水」、「市販のミネラルウォーター」「溪流の水」で昨年と順位変わらず

大都市圏生活者がおいしいと感じる水は、トップに「湧き水」(40.7%)、第2位「市販のミネラルウォーター」(26.4%)、第3位「溪流の水」(13.1%)と昨年と変わらない順位となりました。

1位～3位のうち、1位は昨年よりポイントが減少しましたが、「市販のミネラルウォーター」は4.3%、「溪流の水」は0.2%増加しました。

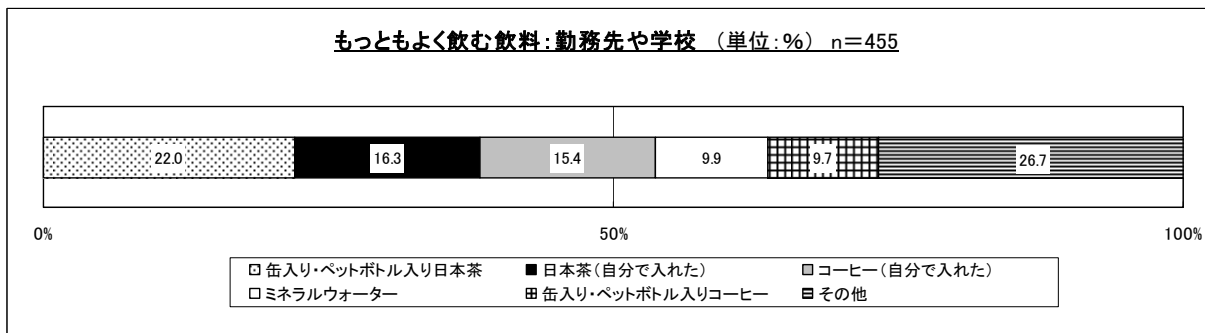
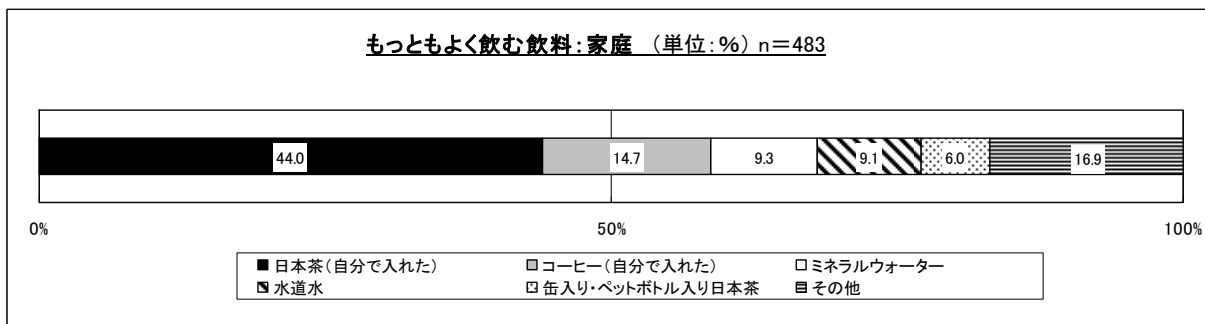
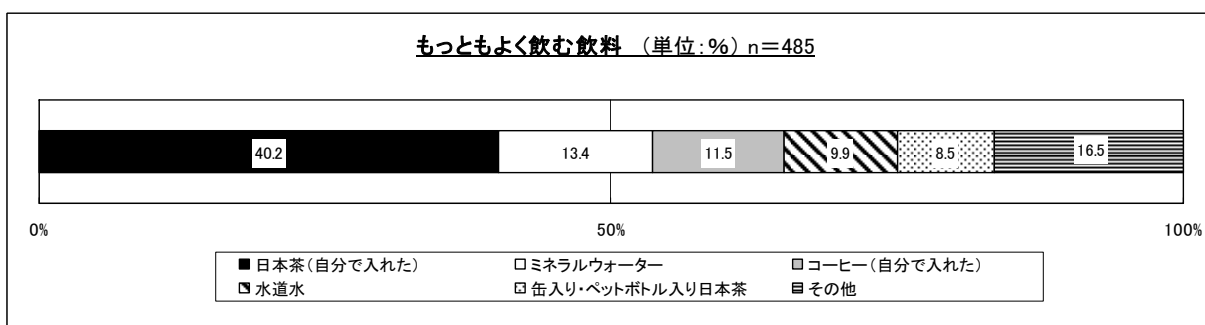


Q. 日常あなたがよく飲む飲料は？ (13 択+その他/上位3つまで回答)

◇「自分で入れた日本茶」がトップで全体の約4割

日常生活でよく飲んでいる飲料のトップは「自分で入れた日本茶」(40.2%)、第2位「ミネラルウォーター」(13.4%)、第3位「自分で入れたコーヒー」(11.5%)、第4位「水道水」(9.9%)、第5位「缶入り・ペットボトル入り日本茶」(8.5%)で、昨年とほぼ変わらない結果となりました。今年の調査ではシーン別に飲む飲料を聞きましたが、シーン別に見てみると、家庭では第1位「自分で入れた日本茶」(44.0%)、第2位「自分で入れたコーヒー」(14.7%)、第3位「ミネラルウォーター」(9.3%)でした。

また勤務先・学校では、第1位「缶入り・ペットボトル入り日本茶」(22.0%)、第2位「自分で入れた日本茶」(16.3%)、第3位「自分で入れたコーヒー」(15.4%)。ここでも日本茶を飲む傾向がうかがえます。

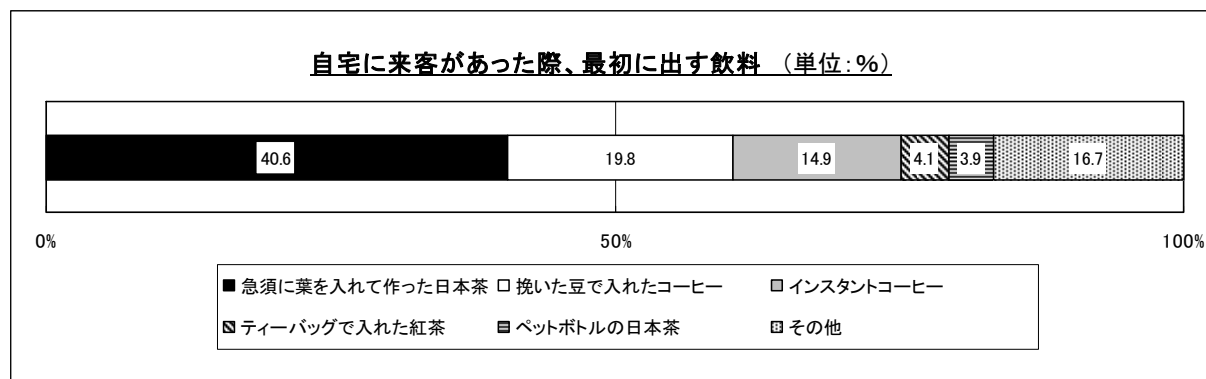


Q. 自宅に来客があった際、最初に出す飲料は？

(13 択＋その他) n=484

◇全体の約 4 割が「急須に葉を入れて作った日本茶」

自宅に来客があった際、最初に出す飲料について聞いてみると、トップは「急須に葉を入れて作った日本茶」(40.6%)、第 2 位「挽いた豆で入れたコーヒー」(19.8%)、第 3 位「インスタントコーヒー」(14.9%)、第 4 位「ティーバッグで入れた紅茶」(4.1%)、第 5 位「ペットボトルの日本茶」(3.9%)という結果になりました。8 割弱がペットボトル飲料等ではなく、一手間かけた飲み物を来客に出す傾向がうかがえます。



Q. 水の供給県(都道府県)として思いつくのは？

(自由回答)

◇トップは「長野県」で 23.8%、大阪圏では「滋賀県」がダントツの 1 位(72.2%)

◇今年第 3 位に「岐阜県」がランクイン

例年と変わらず水の供給県として挙げられたのが、第 1 位「長野県」(23.8%)、第 2 位「滋賀県」(22.7%)で、居住地別に見てみると、大阪圏でのトップ「滋賀県」(72.2%)のイメージは変わらず、昨年の 61.3%から約 11%増加しています。

注目したいのが、全体で第 3 位となっている「岐阜県」(6.5%)。上位との差が開いているものの、中京圏では岐阜県に対するイメージが昨年(15.3%)から約 7%強上がっており、今年では 22.8%でした。

イメージする水の供給県トップ 3 (単位:%)

	全体 n=463		東京圏 n=225		大阪圏 n=115		中京圏 n=123	
1	長野県	23.8	長野県	24.0	滋賀県	72.2	長野県	35.0
2	滋賀県	22.7	山梨県、群馬県	11.1	長野県	11.3	岐阜県	22.8
3	岐阜県	6.5			北海道	4.3	愛知県	8.1

Q. もっともおいしい水が飲めると思う都道府県と国は？

(自由回答)

◇14年連続トップは、都道府県では「長野県」、国では「日本」

もっともおいしい水が飲めると思う都道府県は、第1位「長野県」(23.5%)、第2位「北海道」(12.5%)、第3位「山梨県」(11.0%)でした。

また国については、第1位「日本」(55.6%)、第2位「スイス」(28.1%)、第3位「フランス」(5.1%)でした。都道府県別、国別の第1位は14年連続トップという結果となりました。

もっともおいしい水が飲めると思うイメージ都道府県トップ3 (単位:%)

	全体 n=473		東京圏 n=231		大阪圏 n=118		中京圏 n=124	
1	長野県	23.5	長野県	24.2	長野県	26.3	長野県	19.4
2	北海道	12.5	山梨県	13.9	北海道	11.0	静岡県、岐阜県	15.3
3	山梨県	11.0	北海道	13.0	山梨県	8.5		

もっともおいしい水が飲めると思うイメージの国トップ3 (単位:%)

	全体 n=473		20代 n=112		30代 n=121		40代 n=117		50代以上 n=123	
1	日本	55.6	日本	42.9	日本	52.9	日本	57.3	日本	68.3
2	スイス	28.1	スイス	36.6	スイス	27.3	スイス	29.9	スイス	19.5
3	フランス	5.1	カナダ	5.4	フランス	8.3	フランス	5.1	カナダ	4.9

日常生活と水・生活文化と水

Q. 思い出に残る“水遊び”は、何歳頃、どこで、何をしたことですか？

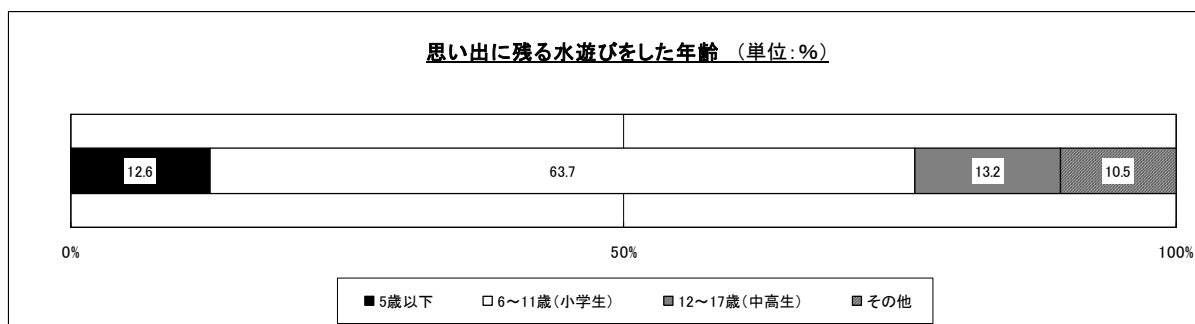
◇「小学生の頃」(63.7%)、「海で」(40.6%)、「水泳をした」(35.2%) 思い出

思い出に残る印象深い“水遊び”、もしくは“水辺での遊び”について聞いてみました。

年齢については、約 6 割が「6～11歳(小学生時代)」、場所としては、「海」(40.6%)で、それぞれ昨年と変わらない結果となりました。また水遊びの種類については「水泳」(35.2%)がダントツのトップでした。

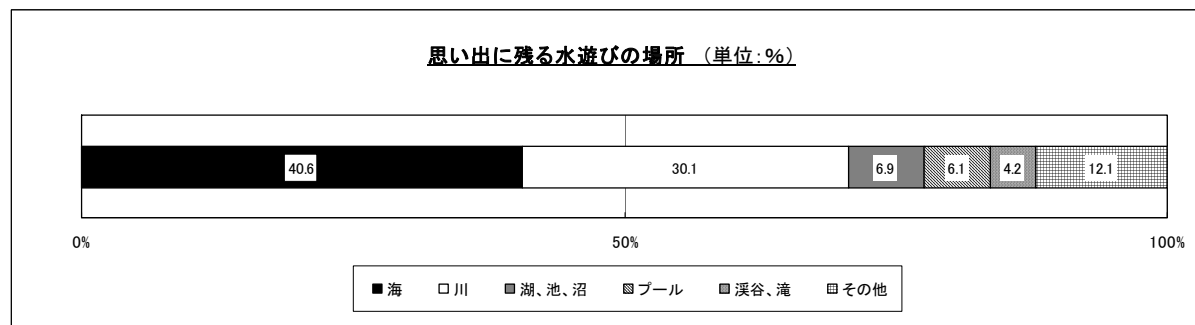
■何歳頃の思い出か？（年齢を記入） n=486

第1位「6～11歳(小学生)」(63.7%)、第2位「12～17歳(中学生)」(13.2%)、第3位「5歳以下」(12.6%)となり、トップは変わらないものの、昨年の第2位「5歳以下」(11.7%)と第3位「12～17歳」(9.3%)が入れ替わりました。



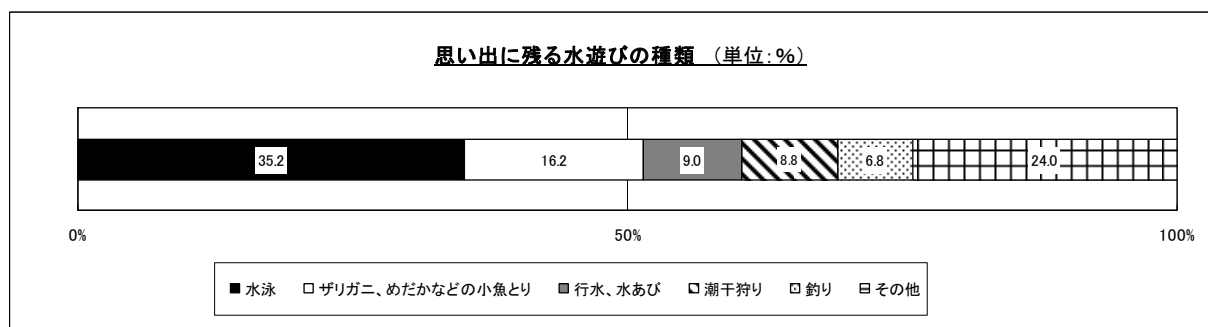
■どこで体験した思い出か？（14 択+その他） n=478

第1位「海」(40.6%)、第2位「川」(30.1%)、第3位「湖、池、沼」(6.9%)、第4位「プール」(6.1%)という結果になりました。昨年と比較すると第1位「海」は1.8%、第2位「川」は4.7%減少。一方で、第3位「湖、池、沼」は2.8%、第4位「プール」は1.8%増加しました。



■どんな「水遊び」をした思い出か？（17 択+その他） n=468

第1位「水泳」(35.2%)、第2位「ザリガニ、めだかなどの小魚とり」(16.2%)、第3位「行水、水あび」(9.0%)、第4位「潮干狩り」(8.8%)、第5位「釣り」(6.8%)と、昨年とほぼかわらない結果となりました。



Q. 思い出の“水遊び”を最近しましたか？ n=484

また自分の子供(孫)にその“水遊び”を体験させたいと思いますか？ n=486

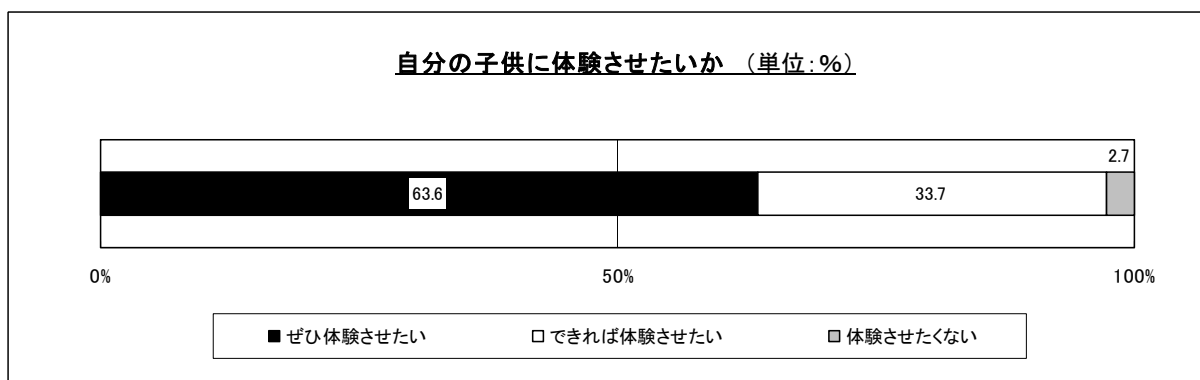
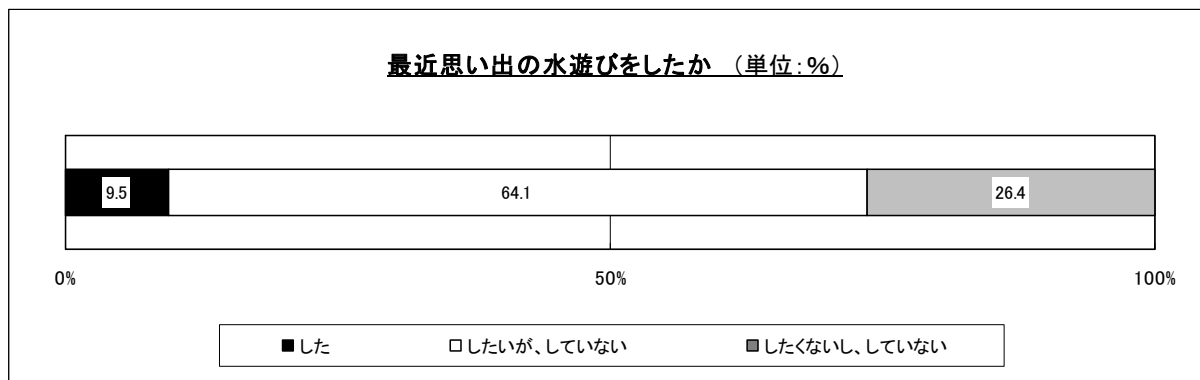
◇全体の約 6 割が、思い出の水遊びを、「したいが、最近していない」

◇思い出の遊びを子供(孫)に「ぜひ体験させたい」も全体の約 6 割

前問の「思い出に残る水遊び」について、「最近その遊びをしたか?」「その遊びを自分の子供や孫(いない方の場合はいと仮定して)に体験させたいと思うか?」の 2 点について質問してみました。

「最近、その遊びをしたか?」については、全体の 6 割が「したいが、していない」(64.1%)でトップ。「実際にした」人は約 1 割にとどまりました。

また「その遊びを子供(孫)に体験させたいか?」については、「是非体験させたい」は 63.6%と大多数を占め、「体験させたくない」については 2.7%とわずかでした。

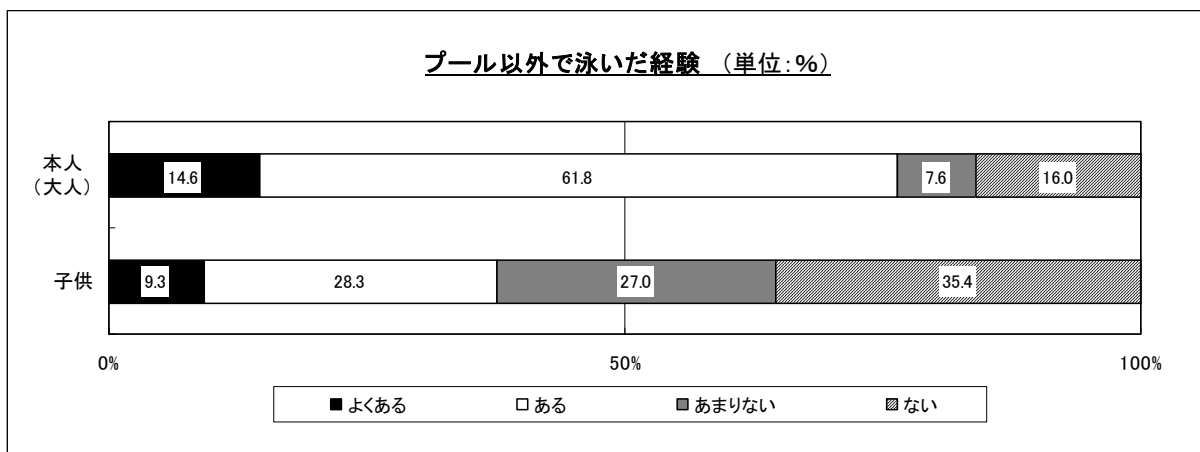


Q. あなたは海・川・湖などプール以外で泳いだことはありますか。 n=486

またあなたの子供(孫)はどうですか？ (子供・孫がいる人のみ回答 n=311)

◇「プール以外で泳いだことがない」子供たちは、全体の 3 割強

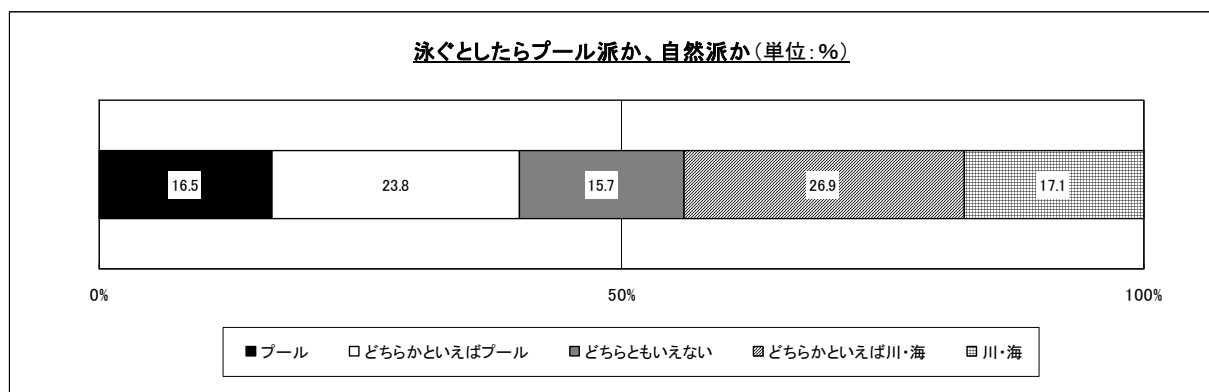
本人(大人)のプール以外で泳いだ経験について、「よくある」「ある」と答えた人が 76.4%でした。一方子供(孫)について聞いてみると、「よくある」「ある」と答えた人は 37.6%で、「プール以外で泳いだことがない」子供が 35.4%にも上りました。



Q. 泳ぐとしたら「清潔なプール」か「自然の川・海」のどちらがよいですか？ n=484

◇全体の4割強が泳ぐなら“自然の川・海”

“自然派”（「川・海」「どちらかといえば川・海」）は 44.0%、一方の“プール派”（「プール」「どちらかといえばプール」）は 40.3%と、自然派が若干上回る結果でした。前問で本人におけるプール以外で泳いだ経験が 7 割強であることから、自然での思い出が結果に反映されていると推察されます。

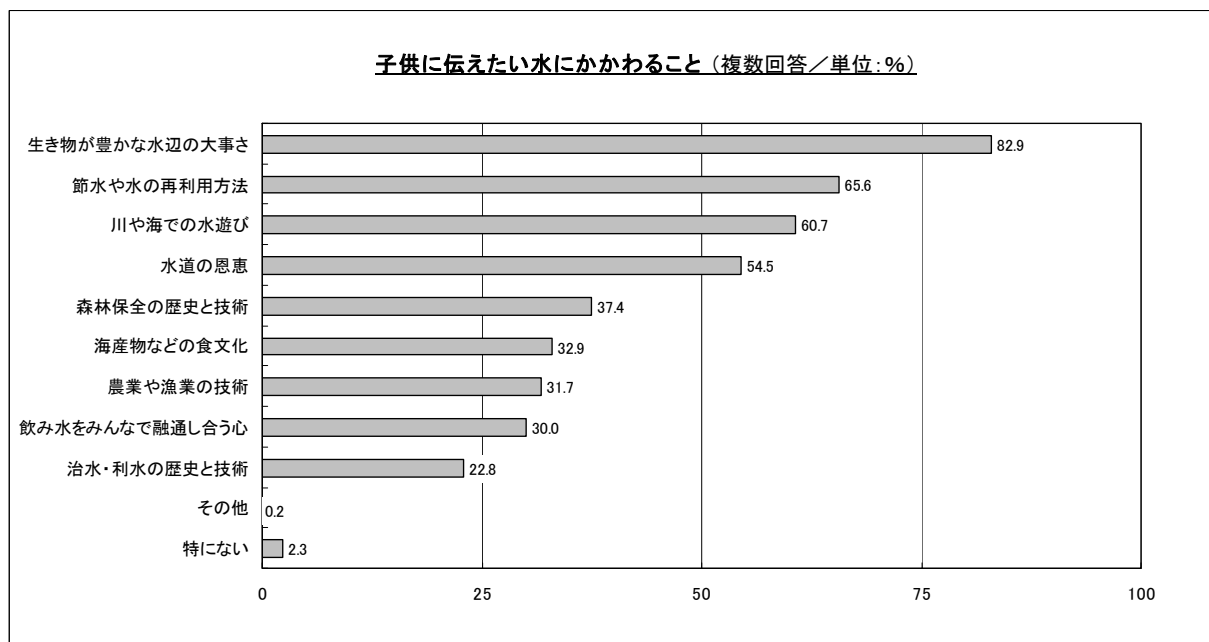


Q. 水にかかわることで、子供に伝えたいと思うことは？

（9 択＋その他＋特にない／複数回答） n=486

◇もっとも子供に伝えたいことは「生き物が豊かな水辺の大事さ」（82.9%）で今年もトップ

第 1 位「生き物が豊かな水辺の大事さ」（82.9%）、第 2 位「節水や水の再利用方法」（65.6%）、第 3 位「川や海での水遊び」（60.7%）、第 4 位「水道の恩恵」（54.5%）と続き、上位 4 位までは昨年と同様の順位でした。今年は第 5 位に「森林保全の歴史と技術」（37.4%）がランクインしており、昨年の第 7 位（28.7%）から 8.7%増加。実際の身近な生活から子供に伝えていきたい意思がうかがえます。

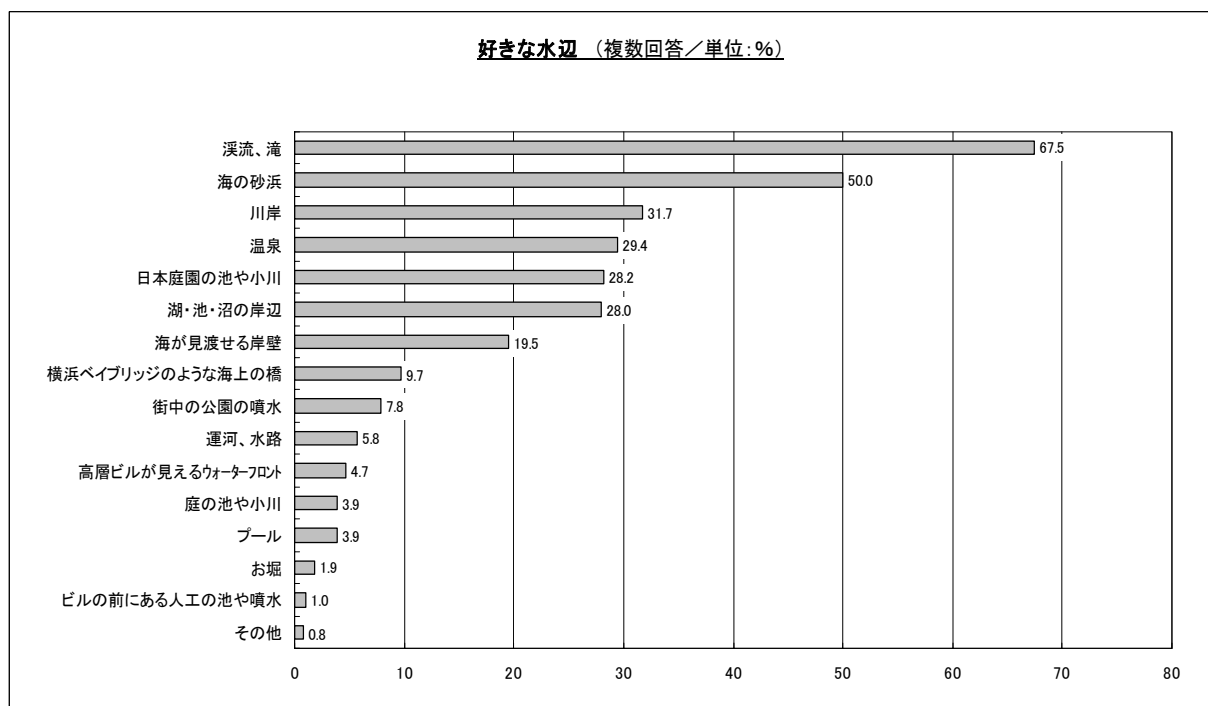


Q. あなたが好きな水辺は？

(15 択＋その他／3 つまで回答) n=486

◇好きな水辺といえば、「溪流、滝」が全体の 6 割強

昨年と変わらず今年のトップは「溪流、滝」(67.5%)。続く第 2 位は「海の砂浜」(50.0%)、第 3 位「川岸」(31.7%)という結果になりました。大自然を満喫したい気持ちの表れなのかもしれません。

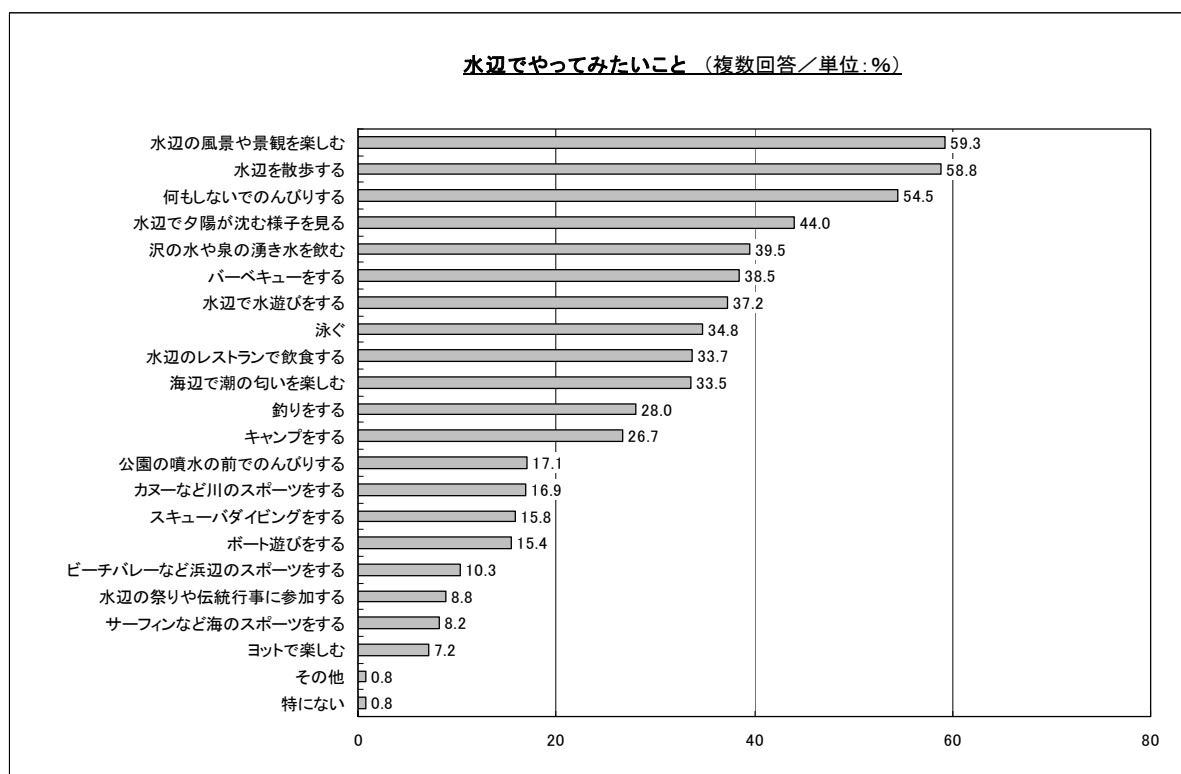


Q. 水辺でやってみたいことは？

(20 択＋その他＋特にない／複数回答) n=486

◇トップ 3 は「風景や景観を楽しむ」「散歩する」「何もしないでのんびりする」で昨年と変わらず

トップ 3 である「風景や景観を楽しむ」「散歩する」「何もしないでのんびりする」は過半数に達しており、さらに第 5 位までで見ると、積極的に動くというよりは、ゆっくりと情緒を楽しみたいという傾向がうかがえます。

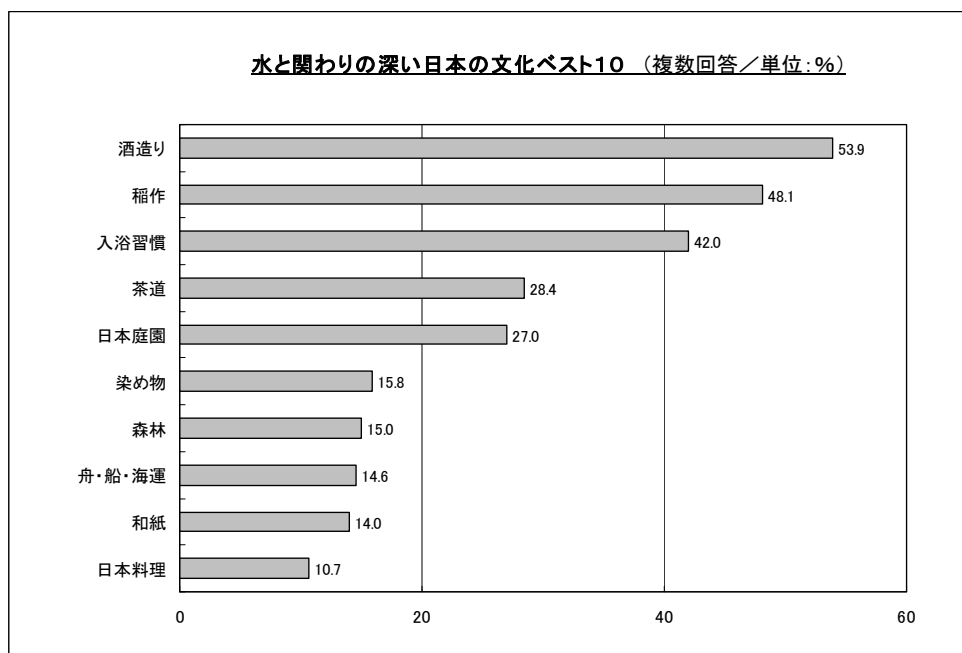


Q. 水とかかわりの深い日本文化といえば？

(19 択＋その他／3 つまで回答) n=486

◇トップ3は「酒造り」「稲作」「入浴習慣」

第1位は「酒造り」(53.9%)、第2位「稲作」(48.1%)、第3位「入浴習慣」(42.0%)と昨年と同様の結果でした。また第10位「日本料理」(10.7%)は順位こそ変わらないものの、昨年と比較すると、「日本料理」で約3%(昨年7.9%)とわずかながら増加しました。



Q. “水の都”のイメージにもっとも近い都市は？

(自由回答)

◇「水の都」を思わせる都市は、「大阪」「京都」「大垣」

全体でのトップは昨年同様「大阪」で18.0%、居住地別で見ると、東京圏では第1位「京都」(13.3%)、大阪圏では「大阪」(47.1%)、中京圏では「大垣」(23.0%)という結果になりました。昨年と比較してみると、全体で第3位の「大垣」(6.6%)が急浮上しています。「大垣」では15近くもの一級河川が流れていることから、水の都を思わせるイメージが広がりつつあるのかもしれない。

“水の都”をイメージする都市トップ5 (単位:%)

	全体 n=467		東京圏 n=226		大阪圏 n=119		中京圏 n=122	
1	大阪	18.0	京都	13.3	大阪	47.1	大垣	23.0
2	京都	9.2	大阪	9.3	滋賀	5.9	岐阜	9.0
3	大垣	6.6	仙台、潮来	4.9	高知	5.0	京都、仙台、 郡上八幡	8.2
4	仙台	5.6			仙台、 郡上八幡	4.2		
5	郡上八幡	5.4			郡上八幡			

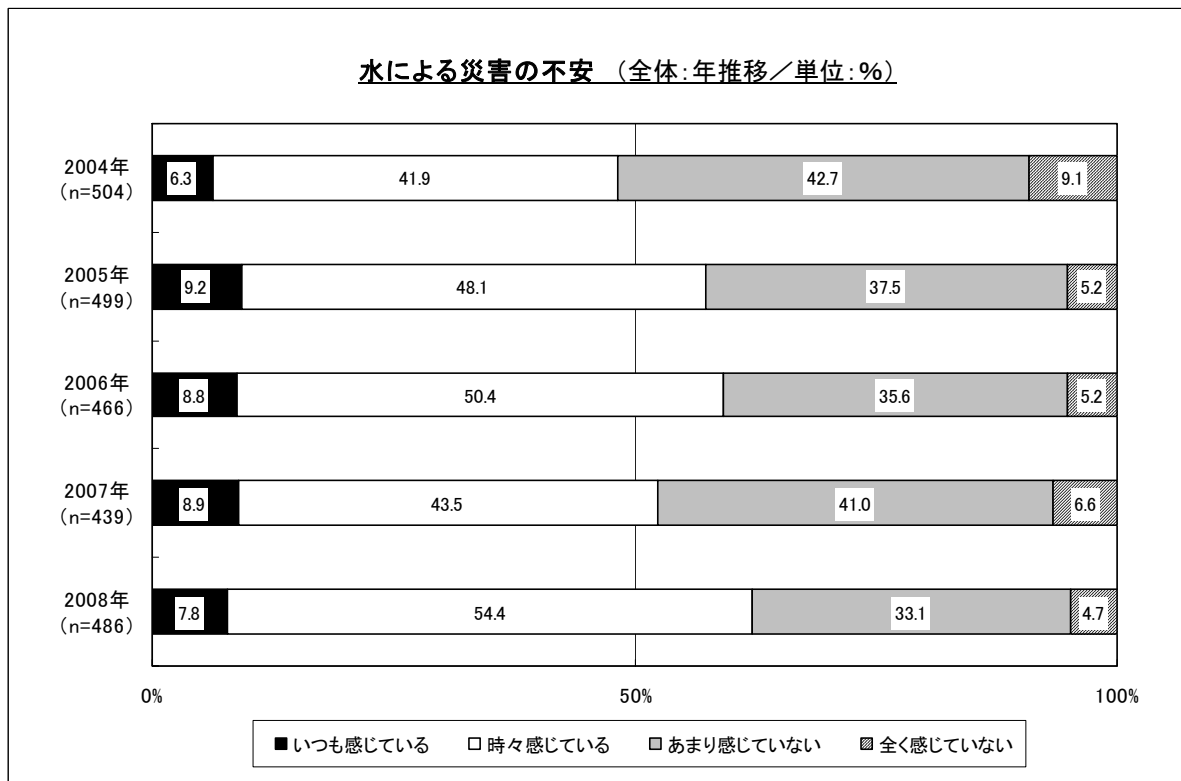
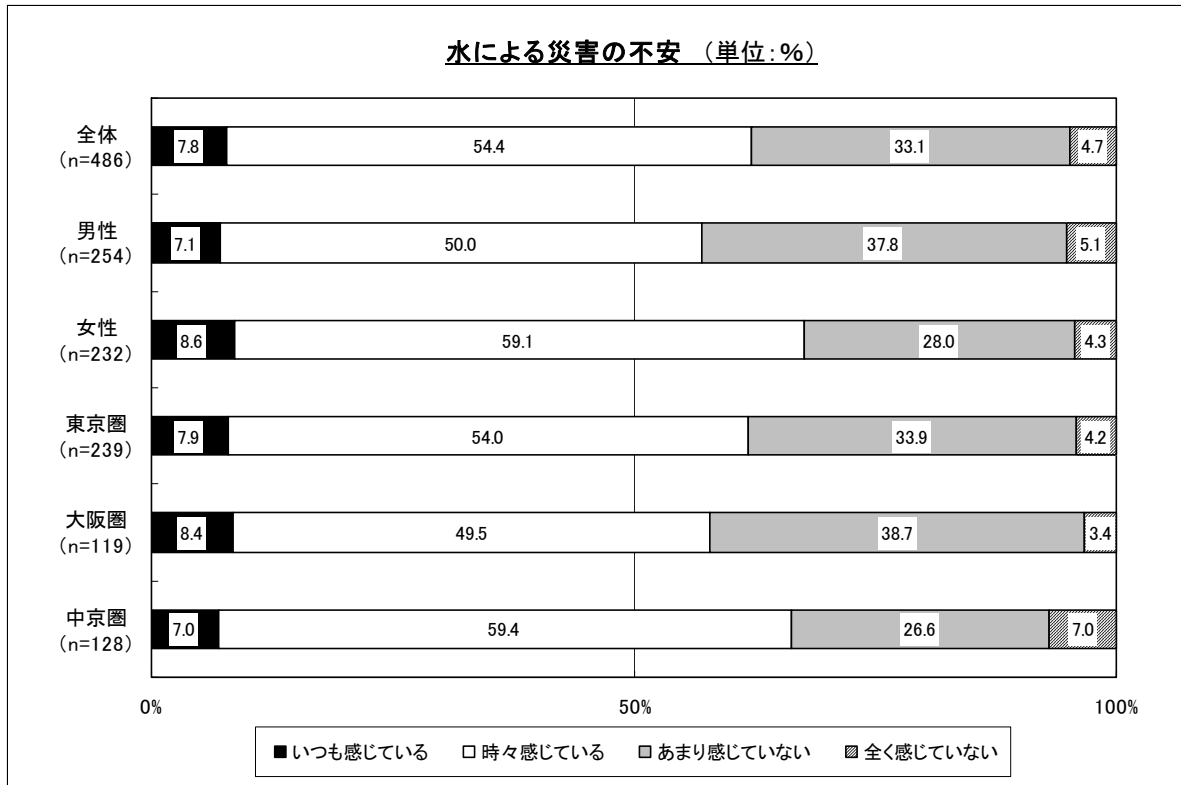
水と災害

Q. 日常生活の中で、水による災害が起こることに不安を感じているか？

◇水による災害の不安を感じている人は 62.2%、昨年より約 10%増

全体では「いつも感じている」が 7.8%、「時々感じている」が 54.4%と、合わせると 62.2%が何らかの不安を感じており、昨年の 52.4%を上回る結果となりました。

性別ごとに見てみると、「女性」(67.7%)の方が不安を感じており、昨年の 56.7%と比べると 11%増加。また居住地別では、「大阪圏」(57.9%)は昨年の 52.3%から 5.6%と若干の増加でしたが、「東京圏」(61.9%)では昨年の 51.0%から 10.9%増加、「中京圏」(66.4%)では昨年の 55.5%から 10.9%増加と、今年は地震などの災害もあったためか、いずれも水による災害不安は昨年より増加傾向であることがうかがえます。



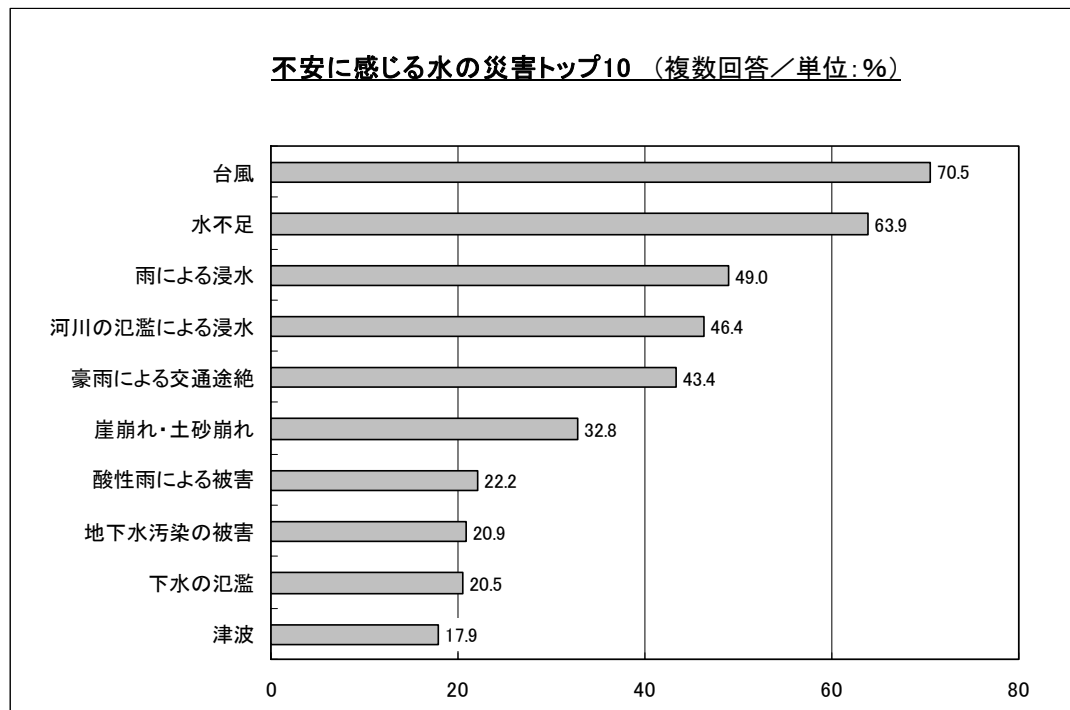
Q. 具体的にどのような災害に対する不安か？

(17 択＋その他／複数回答／前問で「いつも感じている」「時々感じている」人のみ回答 n=302)

◇トップ 3 は「台風」(70.5%)、「水不足」(63.9%)、「雨による浸水」(49.0%)

トップ 3 の順位は昨年同様の結果となりました。

今回注目したいのが、第 7 位「酸性雨による被害」(22.2%)と第 8 位「地下水汚染の被害」(20.9%)。「酸性雨による被害」は昨年 (19.6%) と比べて 2.6% とわずかながら増加、また「地下水汚染の被害」は昨年第 11 位 (16.1%) のトップ 10 圏外でしたが、4.8% 増加でトップ 10 に入りました。身体における二次災害への不安もあわせて感じているのかもしれません。

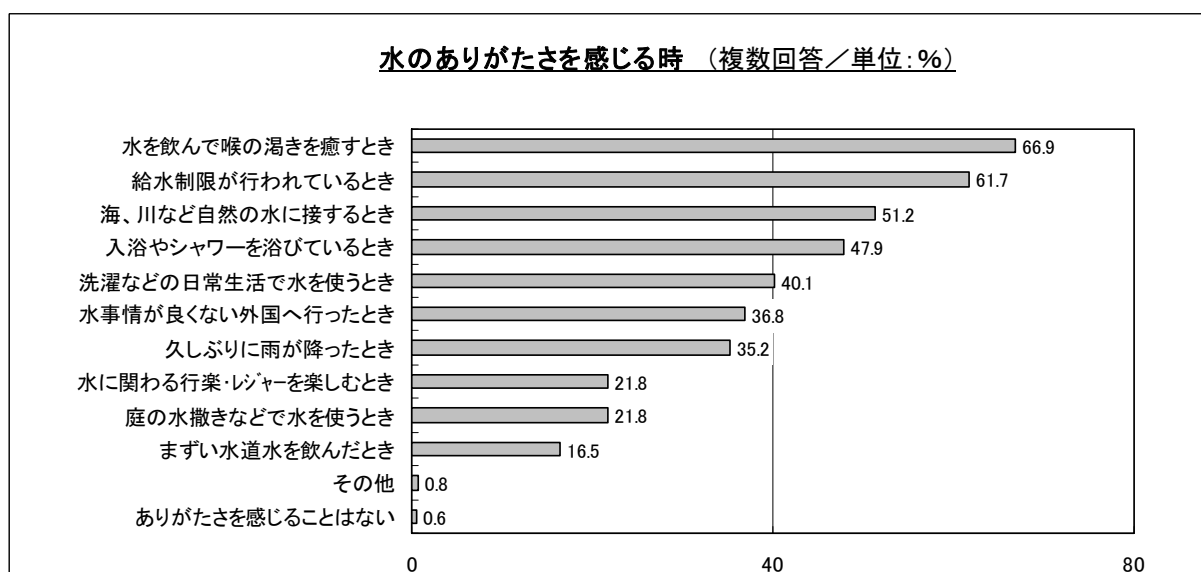


Q. 水のありがたさを感じる時？

(10 択＋その他＋ありがたさを感じることはない／複数回答) n=486

◇トップ 3 「喉の渇きを癒す時」「給水制限が行われている時」「自然の水に接する時」が過半数以上

昨年同様、水のありがたさを感じる時のトップは「水を飲んで喉の渇きを癒す時」(66.9%)、第 2 位「給水制限が行われている時」(61.7%)、第 3 位「海、川など自然の水に接する時」(51.2%)、第 4 位「入浴やシャワーを浴びている時」(47.9%) と上位は昨年同様の順位となりました。



Q. 災害等で水道が止まってしまったら？

(各 10 択+その他/複数回答) n=486

◇昨年から引き続き、行政等の救援の水に期待

災害により家庭の水道が止まってしまったら、昨年と同様、「飲用」「料理」「風呂」「洗面」のトップは「救援用・行政の給水を待つ」という結果になりました。

また救援・行政に頼るだけではなく、「飲用」「料理」は「常備してある水」を利用、また「風呂」「洗面」については「水を使わないですませる」といった自分たちで対処する方法も想定していることがうかがえます。

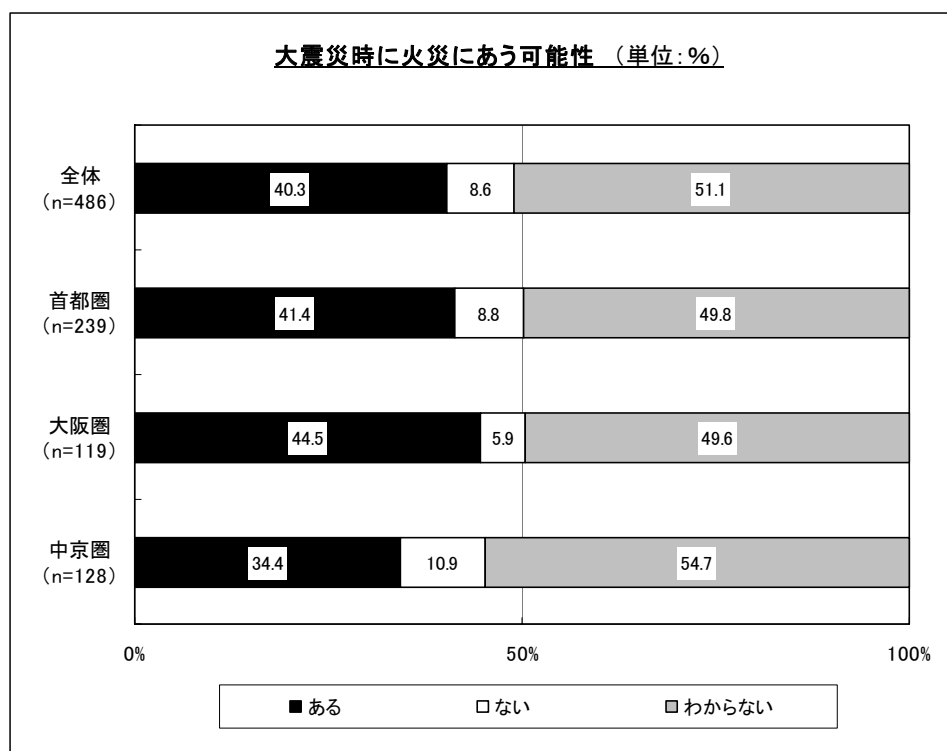
災害等で水道水が使えなくなった時の対処方法 (複数回答/単位:%)

	飲用	料理	風呂	洗面	水洗トイレ
救援用・行政の給水を待つ	①67.9	①66.0	①40.1	①49.6	③28.6
常備してある水	②65.6	②53.9	5.6	③21.8	7.2
近所・親戚の人に分けてもらう	③19.8	③18.3	6.6	9.9	5.6
雨水を使う	8.8	7.0	③18.5	18.9	①45.7
川の水を使う	3.3	2.9	12.1	10.9	②30.0
水は使わないですませる	1.6	11.3	②35.4	②22.2	19.8

Q. 大震災時に火災にあう可能性は？

◇全体の約 4 割が「ある」と答えている一方で、「わからない」は約 5 割

大震災時に火災にあう可能性は「ある」(40.3%)、「ない」(8.6%)、「わからない」(51.1%)という結果になりました。地域別に比較すると、中京圏で「ある」と答えた人が 34.4%と他地域と比べて低めでした。東海地震が発生した場合大きな被害を受ける恐れがある中京圏ですが、震災による火災への意識は他地域よりも低い結果となりました。



Q. 大震災による火災に対する備えは？

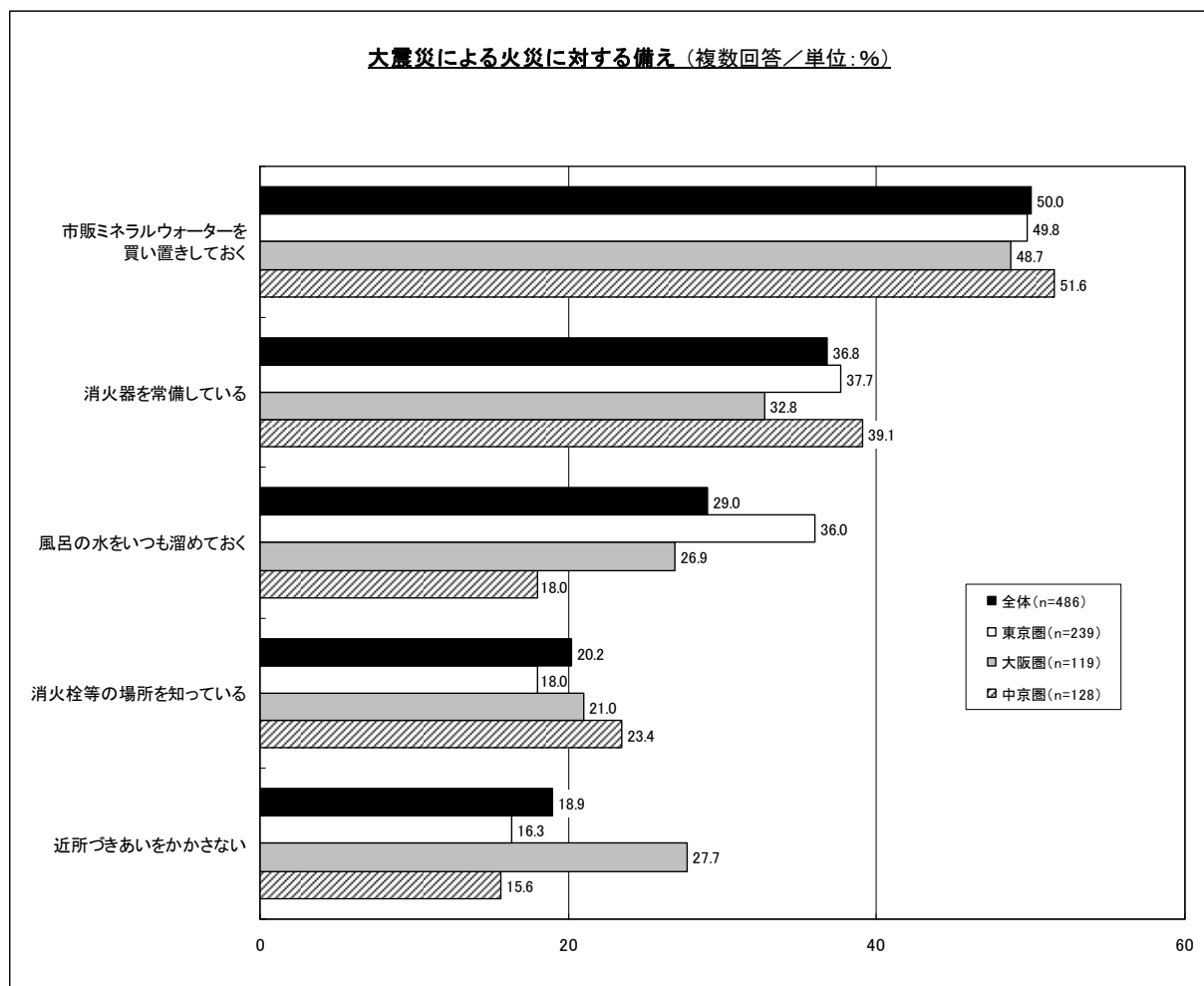
(11 択＋何もしていない／複数回答)

◇全体の 5 割が「市販のミネラルウォーターを買い置きしておく」

◇大阪圏では「近所づきあいをかかさない」(27.7%)が第 3 位

全体をしてみると、トップが「市販のミネラルウォーターを買い置きしておく」(50.0%)、第 2 位「消火器を常備している」(36.8%)、第 3 位「風呂の水をいつも溜めておく」(29.0%)、第 4 位「消火栓等の場所を知っている」(20.2%)という結果になりました。第 5 位「近所づきあいをかかさない」(18.9%)は昨年の 15.3%から 3.6%とわずかながら増加しました。

居住地別では、東京圏の「風呂の水をいつも溜めておく」(36.0%)が一番伸び率が高く、昨年の 31.2%から 4.8%増加。また大阪圏では「近所づきあいをかかさない」(27.7%)は昨年の 15.3%を 12.4%上回る結果となりました。人との協力体制も重視している傾向がうかがえます。



水にかかわる環境

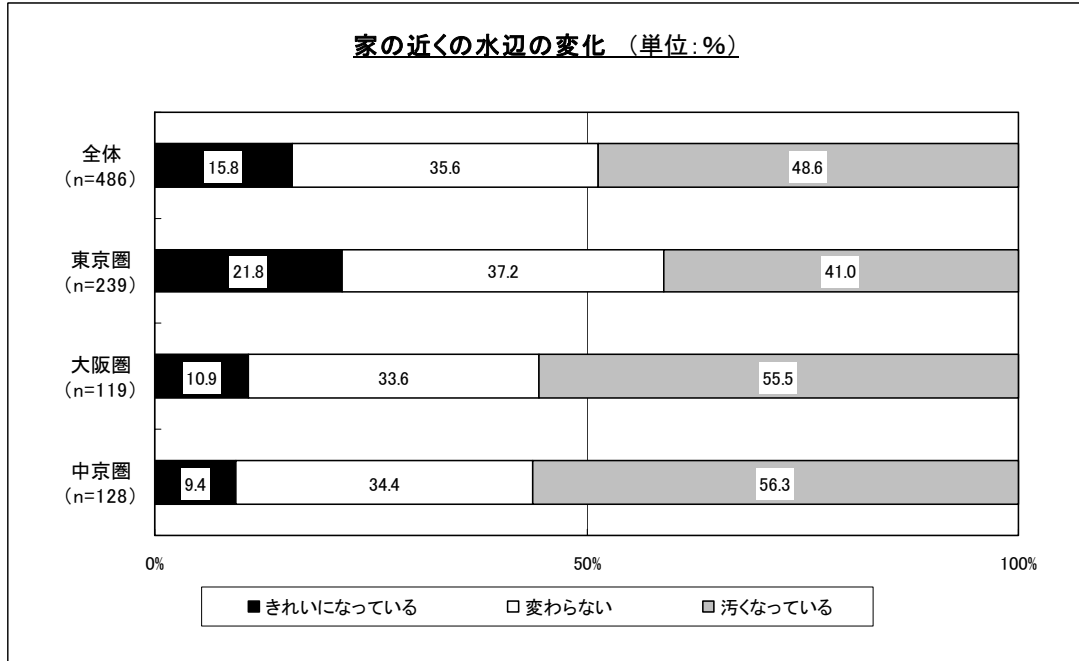
Q. あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

◇全体の約5割が「汚くなっている」と回答

◇東京圏では「きれいになっている」(21.8%)が昨年比10%増

全体を見てみると、「きれいになっている」(15.8%)は昨年の12.4%と比べて3.4%とわずかながら伸びている一方で、「汚くなっている」(48.6%)については昨年の52.6%から4%減少しました。

居住地別で見ると、東京圏で「きれいになっている」(21.8%)が昨年の11.8%を10%上回る結果となりました。

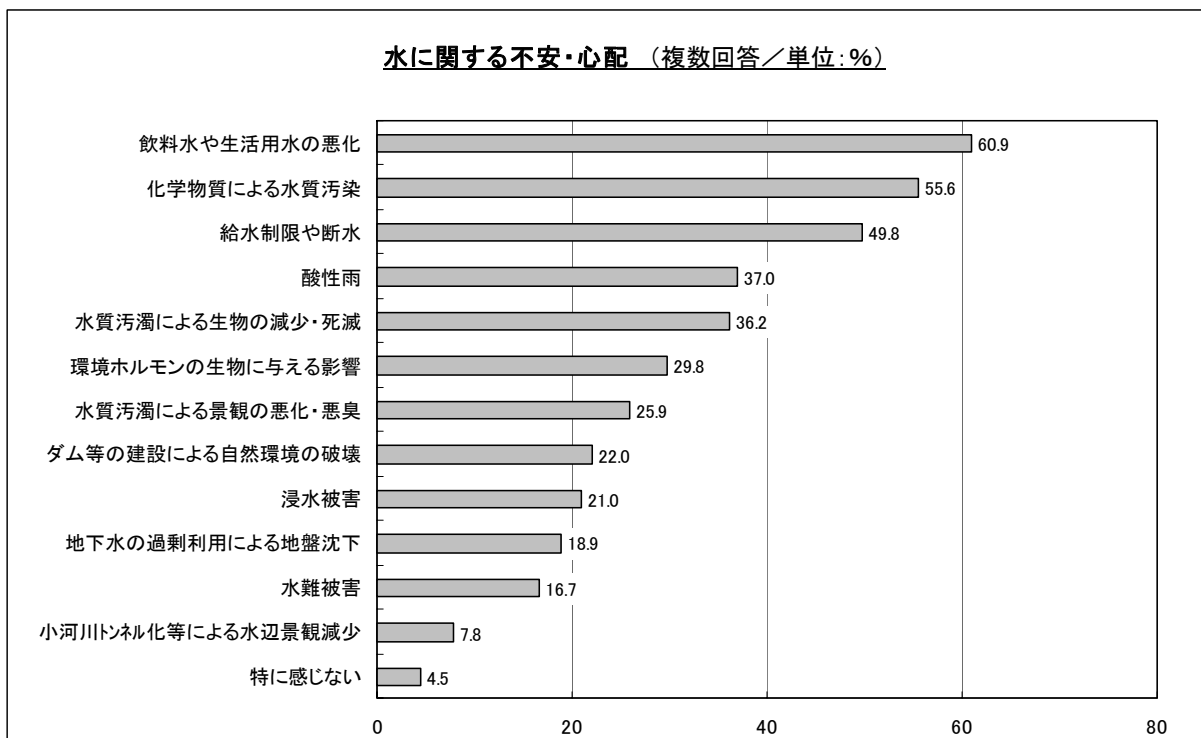


Q. 水に関して日頃不安や心配を感じていることは？

(12 択 + 特に感じない / 複数回答) n=486

◇もっとも不安を感じていることは「飲料水や生活用水の悪化」が全体の約6割(60.9%)

昨年と同様、第1位は「飲料水や生活用水の悪化」(60.9%)、第2位「化学物質による水質汚染」(55.6%)、第3位「給水制限や断水」(49.8%)という結果になりました。第1位は昨年の54.4%から6.5%増加しています。

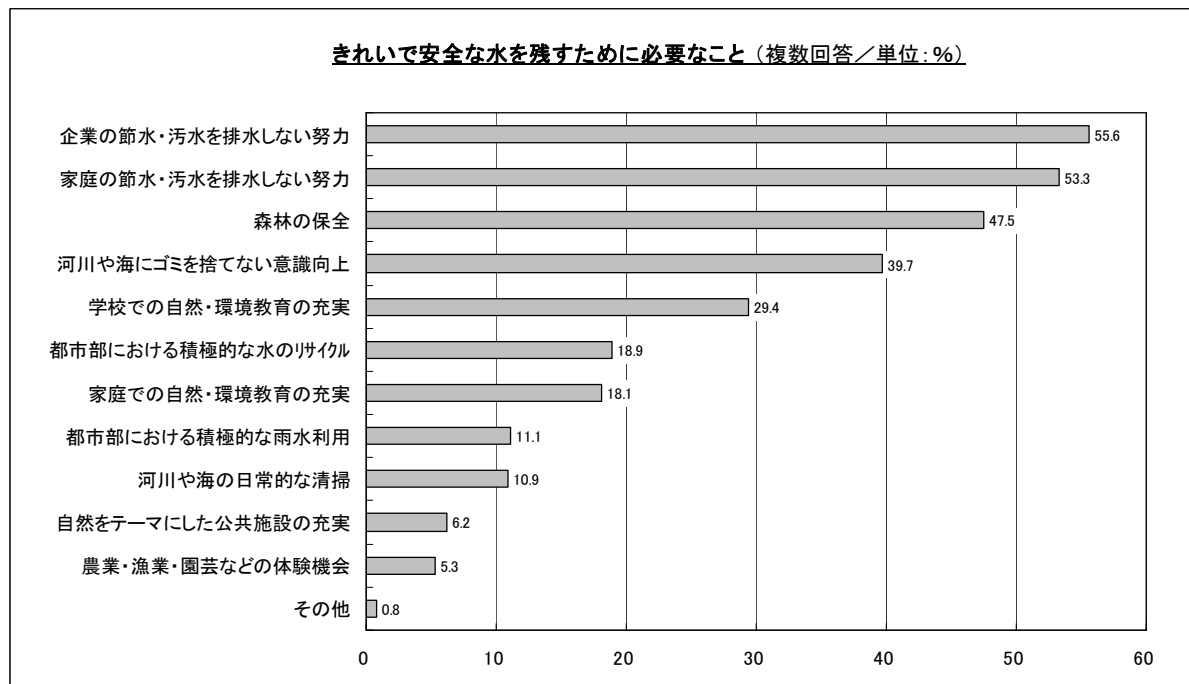


Q. きれいで安全な水を残すために必要なことは？

(11 択＋その他／3 つまで回答) n=486

◇企業、家庭それぞれにおける「節水・汚水を排水しない努力」が過半数以上

第1位「企業の節水・汚水を排水しない努力」(55.6%)、第2位「家庭の節水・汚水を排水しない努力」(53.3%)、第3位「森林の保全」(47.5%)という結果になりました。日ごろからの心がけがうかがえます。

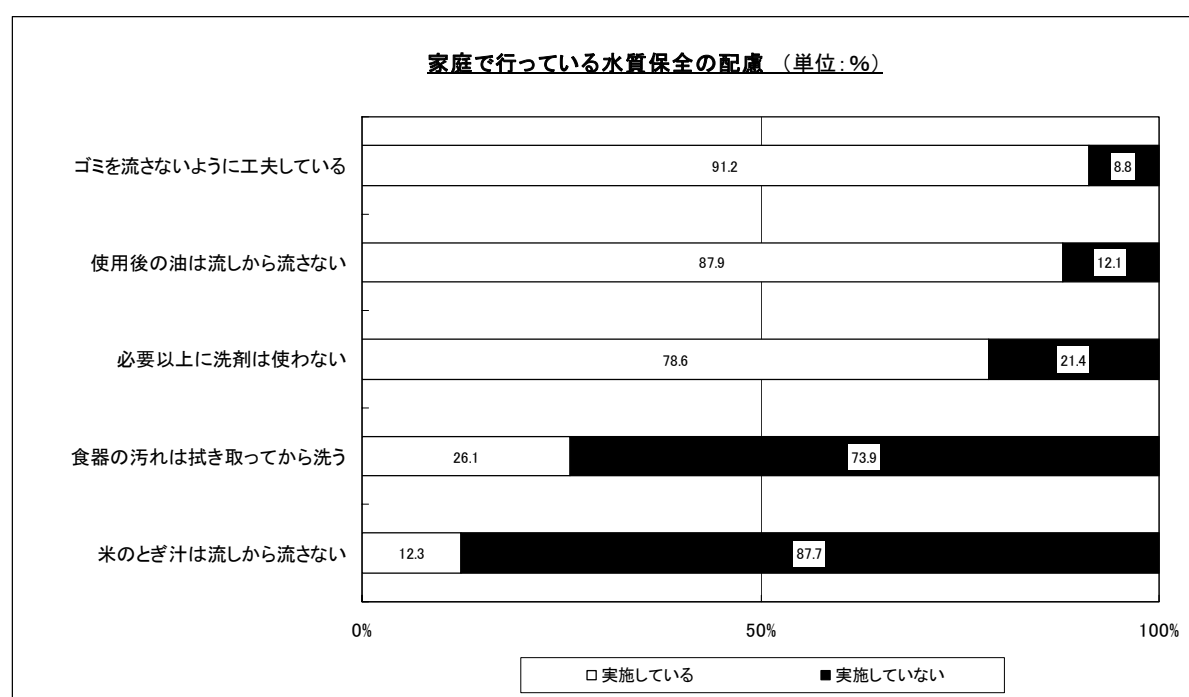


Q. あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？

(5 択＋あてはまるものはない／複数回答) n=486

◇「ゴミを流さないように工夫している」は全体の約 9 割

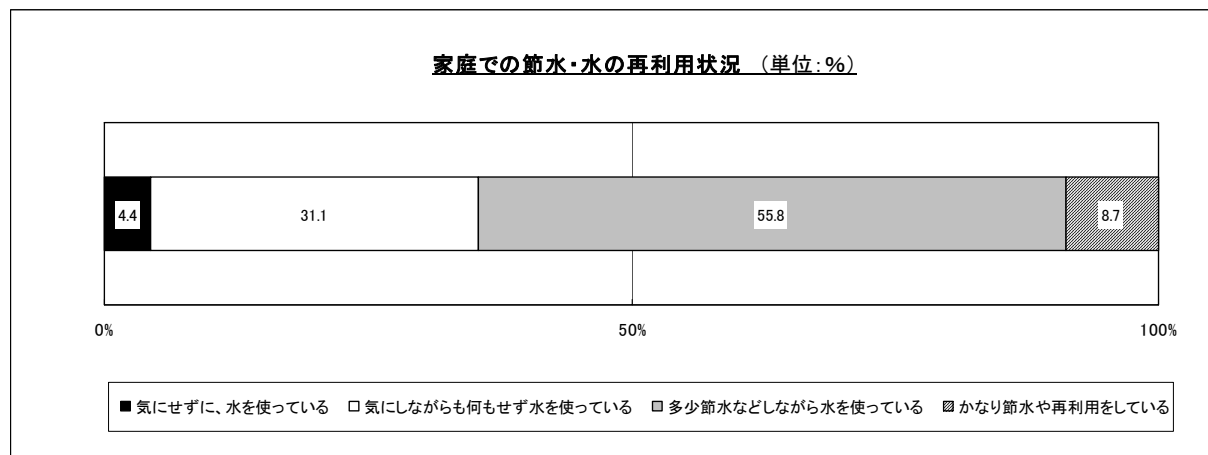
トップは「ゴミを流さないように工夫している」(91.2%)、第2位「使用後の油は流しから流さない」(87.9%)、第3位「必要以上に洗剤は使わないようにする」(78.6%)と昨年とほぼ変わらずの結果でした。また第4位「食器の汚れは拭き取ってから洗う」(26.1%)、第5位「米のとぎ汁は流しから流さない」(12.3%)は昨年に引き続き、あまり定着していない結果となりました。



Q. あなたの家庭ではどの程度節水していますか？ n=482

◇多少なりとも節水を実施している人は 64.5%

「かなり節水や再利用をしている」が 8.7%と昨年の 7.5%からわずかに増加しました。また「多少節水などしながら水を使っている」が 55.8%、「気にしながらも何もせず水を使っている」が 31.1%、「気にせずに水を使っている」が 4.4%。64.5%の家庭で何らかの節水や水の使い回しをしているという結果でした。



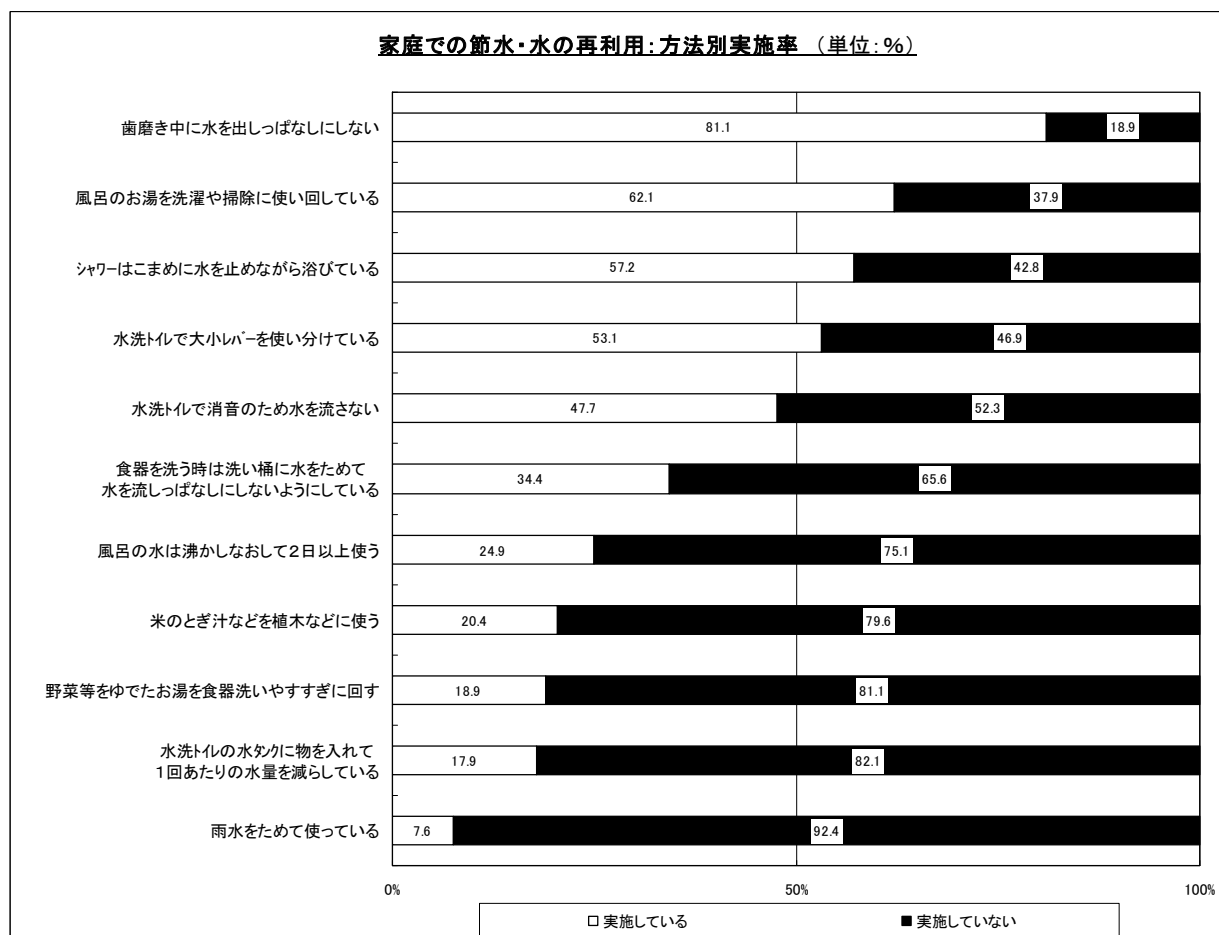
Q. あなたの家庭の節水方法は？

(11 択+その他+特にやっていない/複数回答) n=486

◇全体の約 8 割が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」

◇「水洗トイレの水タンクに物を入れて 1 回あたりの水量を減らしている」が 17.9%と約 3%増

実施率が高かった第 1 位は「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」(81.1%)。続いて第 2 位「風呂のお湯を洗濯や掃除に使い回している」(62.1%)、第 3 位「シャワーはこまめに水を止めながら浴びている」(57.2%)、第 4 位「水洗トイレで大小のレバーを使い分けている」(53.1%)で、上位第 4 位までは実施率が過半数を超えています。少数派では、「水洗トイレの水タンクに物を入れて 1 回あたりの水量を減らしている」が 17.9%で、昨年の 14.7%からほんのわずかに増えています。小さいところからコツコツと節水する姿がうかがえます。



Q. 水に関わることで知っていること、経験のあることは？

(5 択 + 特になし / 複数回答)

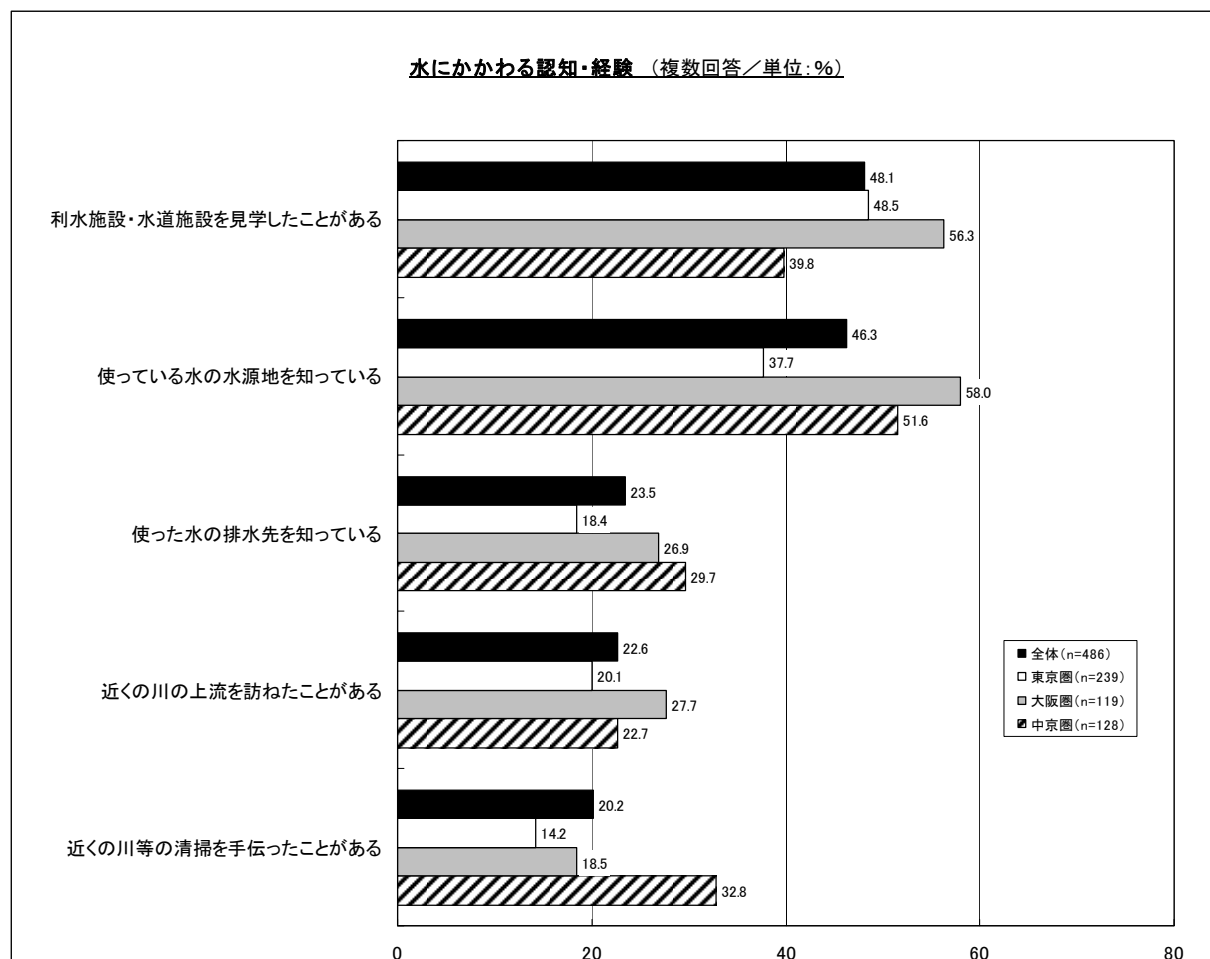
◇全体の 5 割弱が「利水・水道施設を見学したことがある」

◇中京圏では実際に「近くの川等の清掃を手伝ったことがある」が約 3 割(32.8%)

全体で見ると、第 1 位「利水施設・水道施設を見学したことがある」(48.1%)、第 2 位「使っている水の水源地を知っている」(46.3%)、第 3 位「使った水の排水先を知っている」(23.5%)という結果になりました。

東京圏で第 1 位「利水・水道施設を見学」(48.5%)、第 2 位「使っている水の水源地を知っている」(37.7%)や、大阪圏、中京圏で第 1 位「使っている水の水源地を知っている」(大阪圏:58.0%、中京圏 51.6%)と、ある程度水に関わる知識を持っていることがうかがえます。

その一方で、過半数には達しませんが、大阪圏では「近くの川の上流を訪ねたことがある」(27.7%)、中京圏では「近くの川等の清掃を手伝ったことがある」(32.8%)など、実際に経験していることがうかがえます。



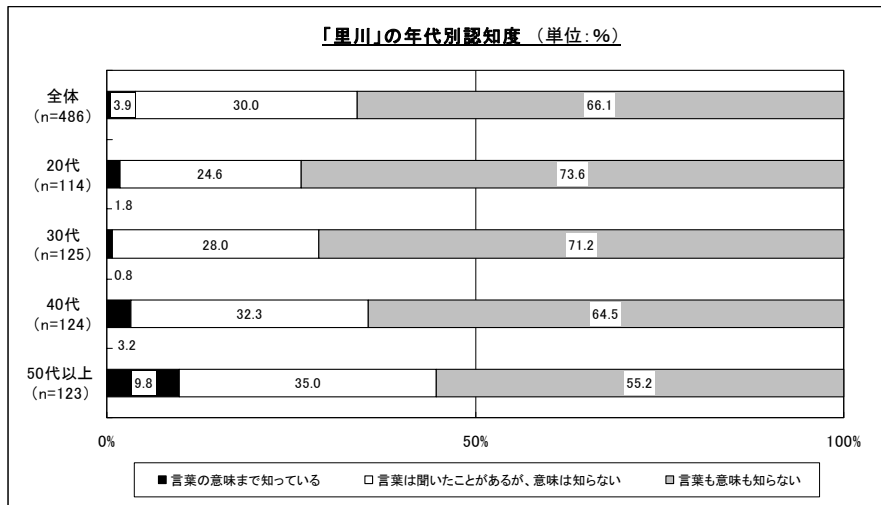
『里川』の認知とイメージ

Q. あなたは“里川”を知っていますか？

- ◇全体の6割強が「里川を知らない」
- ◇世代別では50代以上の9.8%が「里川を知っている」

自然と人との共生の形として、数年前から“里山”に注目が集まり、全国各地で草の根運動的な「里山研究」「里山保全活動」が盛り上がっています。同様の趣旨で「水の文化センター」では2004年から人と川との関係をさぐる「里川(さとがわ)研究」を始めました。ミツカン水の文化センターでは「使いながら守る川」のことを「里川」と定義しています。(※里川研究詳細は、ミツカン水の文化センターホームページ内にある『機関誌「水の文化」』より、15号 里川の構想(http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/mizu_15/index.html)を参照ください。)

全体を見てみると、“里川”を「言葉も意味も知らない人」は66.1%、「言葉は聞いたことがある」30.0%、「言葉も意味も知っている」が3.9%という結果になりました。また年代別に見てみると、認知度こそ低いものの、「言葉は聞いたことがある」が30代で28.0%と昨年(23.2%)より4.8%増、40代(32.3%)では昨年(24.8%)より7.5%増と、若干ではありますが認知度が高まってきていることがうかがえます。

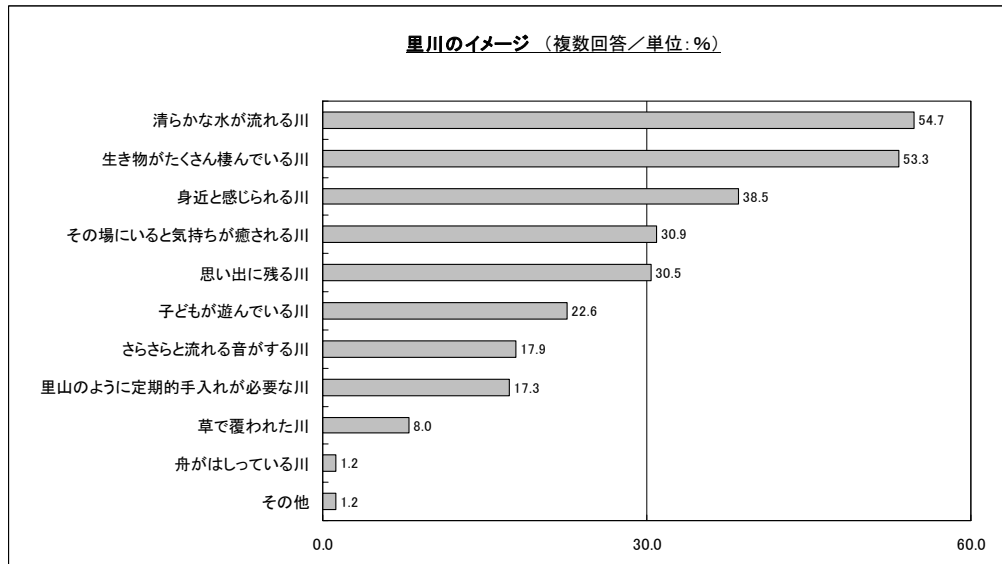


Q. “里川”のイメージは？

(10択+その他/3つまで回答) n=486

- ◇「清らかな水が流れる川」「生き物がたくさん棲んでいる川」は過半数以上で上位

「里川」の認知度は低いものの、言葉聞いてイメージすることのトップに「清らかな水が流れる川」(54.7%)、第2位に「生き物がたくさん棲んでいる川」(53.3%)と続き、昨年同様の順位となりました。また第3位「身近と感ぜられる川」(38.5%)、第4位「その場にいると気持ちが癒される川」(30.9%)から推察すると、“里川”から親しみ深く安らぎをもたらす川を連想していることがうかがえます。

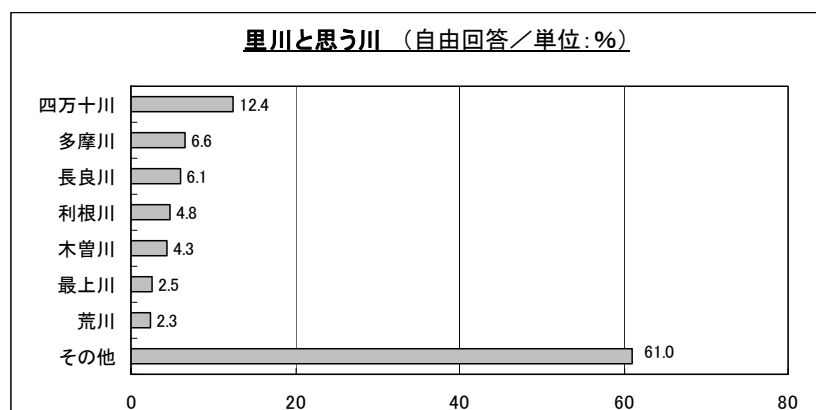


Q. “里川”と思う川は？（自由回答） n=394

◇「四万十川」と答えた人が 12.4%で昨年同様トップ

昨年同様トップは「四万十川」で 12.4%。また第 2 位は「多摩川」(6.6%)、第 3 位は「長良川」(6.1%)という結果になりました。「荒川」(2.3%)については、昨年の圏外から今年は 7 位にランクインしました。

居住地別で見ると、中京圏は第 1 位「長良川」(16.8%)、第 2 位「木曾川」(15.0%)、第 3 位「四万十川」(10.3%)。東京圏は第 1 位「多摩川」(12.4%)、第 2 位「利根川」(9.1%)、第 3 位「四万十川」(8.6%)で、昨年と比べると順位の入替えこそあったものの、上位に選出された川は同様でした。一方、大阪圏では第 1 位の「四万十川」(21.8%)は昨年と同様でしたが、それ以降は選出が変わりました。大阪圏においてはまだイメージが確立されていない様子がうかがえます。



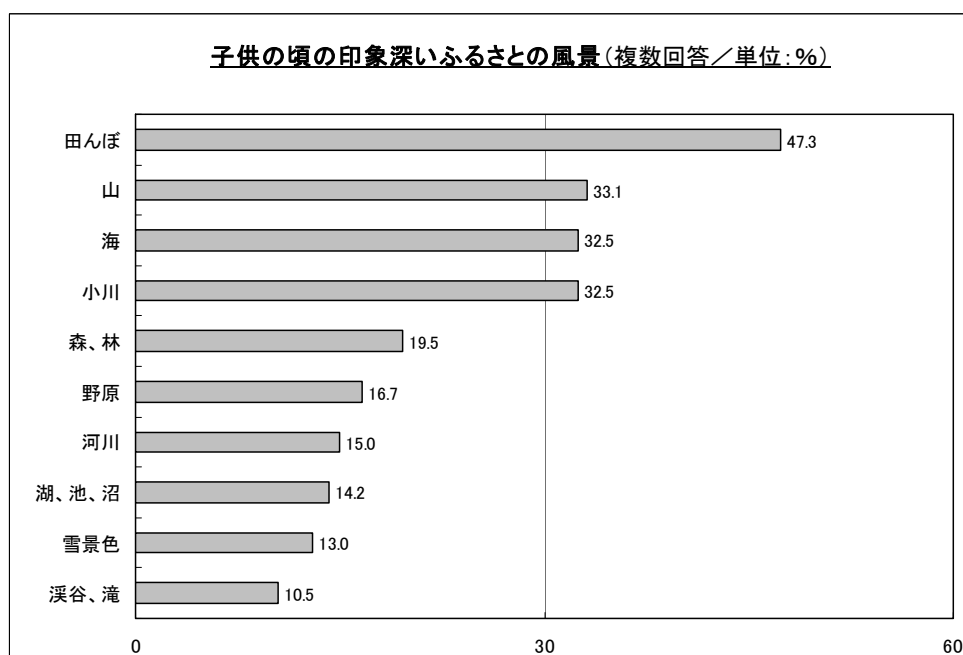
“里川”と思う川(居住地別) (単位：％)

	東京圏 n=186		大阪圏 n=101		中京圏 n=107	
1	多摩川	12.4	四万十川	21.8	長良川	16.8
2	利根川	9.1	長良川	2.0	木曾川	15.0
3	四万十川	8.6	信濃川 千曲川		四万十川	10.3

Q. 子供の頃の印象深いふるさとの風景は？（10 択＋その他／複数回答） n=486

◇第 1 位は「田んぼ」で昨年と変わらず

子供の頃の印象深いふるさとの風景は、第 1 位「田んぼ」(47.3%)、第 2 位「山」(33.1%)、第 3 位「海」「小川」(32.5%)という結果になりました。「小川」は前問であった“里川”のイメージが反映されているのかもしれませんが。



Q. あなたの居住地域で水に関して誇れることはありますか？

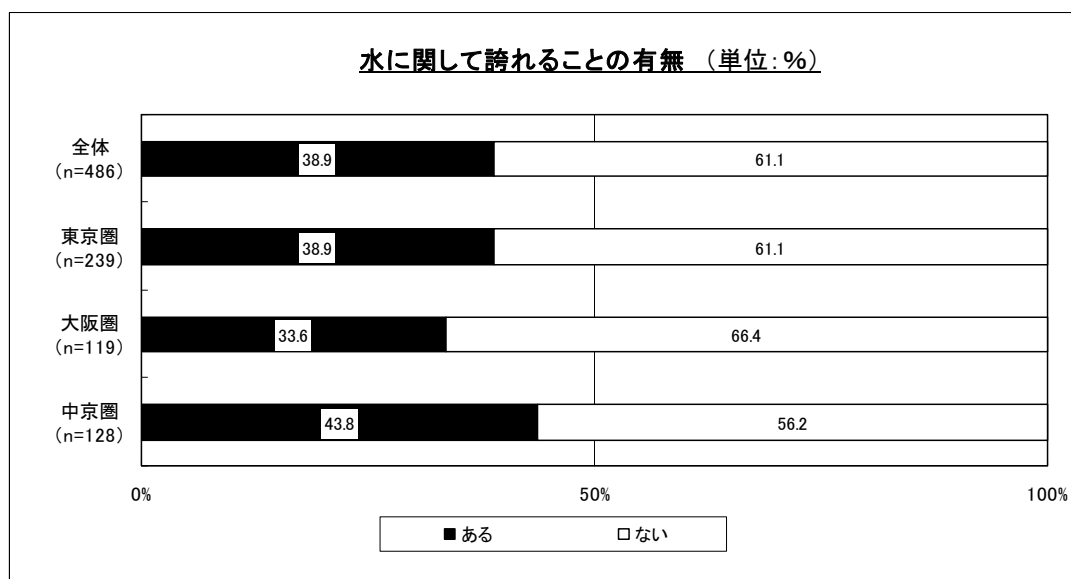
また誇れることは何ですか（前問で「ある」人のみ回答）

◇「水に関して誇れることはある」が全体の 4 割弱と少数

◇誇れることの第 1 位は「川」(50.8%)、第 2 位は「公園」(31.2%)

「水に関して誇れることはある」が 38.9%、「誇れることがない」は 61.1%と昨年とほぼ同様の数値となりました。居住地別で見ると、東京圏(38.9%)は昨年の 35.3%からわずかながら増加しました。昨年に引き続き中京圏(43.8%)は居住地別のトップでした。

次に「水に関して誇れることがある」と回答した方だけを対象に、具体的に何が誇れるのか聞いてみたところ、全体では昨年に引き続き「川」がダントツのトップで 50.8%、第 2 位「公園」(31.2%)、第 3 位「海」(19.0%)、第 4 位「水族館」(13.8%)、第 5 位「森林・水道」(12.2%)という結果になりました。昨年トップ 5 に入らなかった「水族館」が今回はどの大都市でも選ばれました。



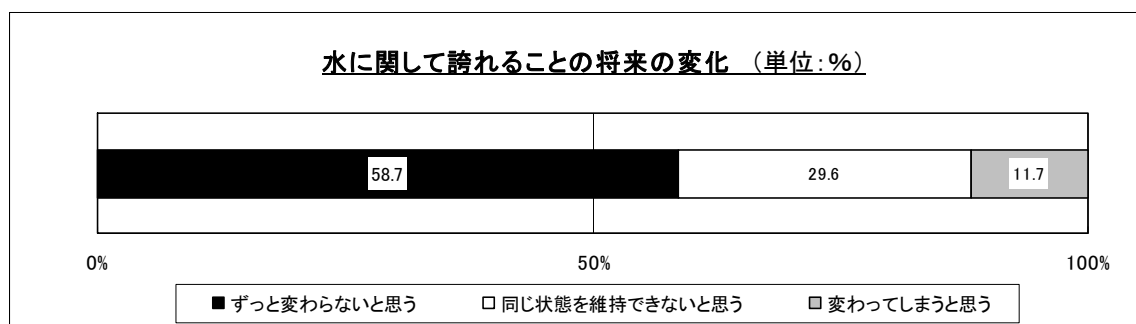
水に関して誇れること(もの・場所・事柄)トップ 5（15 択+その他/複数回答/単位：%）

	全体 n=189		東京圏 n=93		大阪圏 n=40		中京圏 n=56	
1	川	50.8	川	45.2	川	52.5	川	58.9
2	公園	31.2	公園	36.6	公園	22.5	公園	28.6
3	海	19.0	海	23.7	森林	17.5	水道	19.6
4	水族館	13.8	水族館	12.9	海、水道、湖・池・沼、水族館	12.5	海、水族館	16.1
5	森林、水道	12.2	森林	11.8				

Q. 水に関して誇れることは、これからもずっとこのまま変わらないと思いますか？ n=179

◇全体の 6 割弱が「このままずっと変わらないと思う」(58.7%)

前問で「水に関して誇れることはある」と回答した人に聞いたところ、「ずっと変わらないと思う」が 58.7%と昨年(54.4%)から 4.3%増加、また「同じ状態を維持できないと思う」(29.6%)が昨年(36.1%)から 6.5%減少しました。



Q. もっとも自然が残っていると考える日本の川は？

(自由回答)

◇12年連続で「四万十川」がトップ

トップは12年連続で「四万十川」(51.3%)で2位を大きく引き離しています。第2位は「信濃川」(6.2%)で、4年前(4位)と比較すると1.8%増でした。

もっとも自然が残っていると考える日本の川(過去5年の推移) (単位:%)

	2004年 n=473		2005年 n=470		2006年 n=434		2007年 n=411		2008年 n=450	
1	四万十川	52.4	四万十川	50.6	四万十川	52.3	四万十川	48.7	四万十川	51.3
2	木曾川	4.9	長良川	4.0	木曾川	4.8	長良川	5.4	信濃川	6.2
3	長良川	4.7	石狩川	3.8	長良川	4.4	木曾川	4.4	長良川	5.8
4	信濃川	4.4	信濃川	5.1	信濃川	4.1	信濃川	3.9	利根川	5.6
5	石狩川	3.4	最上川	4.3	石狩川	3.5	最上川	3.4	木曾川	4.4

Q. 水辺の自然がもっとも損なわれていると思う都道府県は？

(自由回答)

◇「東京都」と答えた人が57.7%、昨年より8.7%増

昨年同様、トップは「東京都」で57.7%、第2位「大阪府」で28.5%、第3位「神奈川県」で2.5%という結果になりました。

居住地別で見ると、東京圏・大阪圏ではそれぞれの居住地をトップに挙げていますが、大阪圏での「大阪府」(47.4%)は昨年と比べて11.2%減少しています。少しは自然がもどってきたのでしょうか？

水辺の自然がもっとも損なわれていると思う都道府県トップ3 (単位:%)

	全体 n=473		東京圏 n=232		大阪圏 n=116		中京圏 n=125	
1	東京都	57.7	東京都	64.2	大阪府	47.4	東京都	60.0
2	大阪府	28.5	大阪府	20.7	東京都	42.2	大阪府	25.6
3	神奈川県	2.5	神奈川県	4.7	滋賀県	2.6	愛知県	3.2